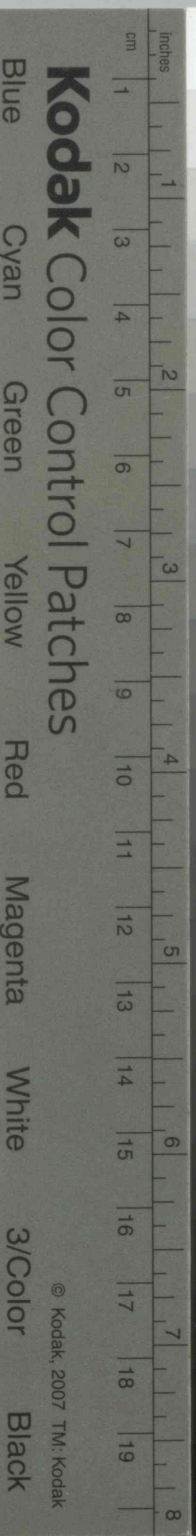
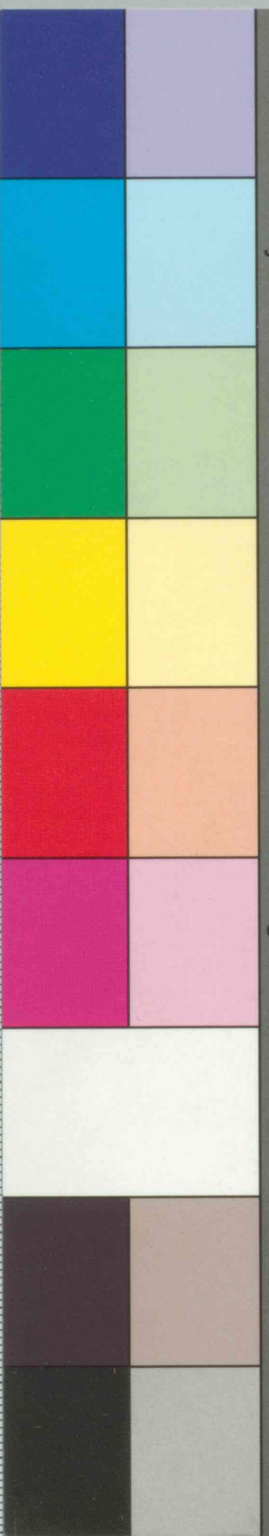


濟定檢省部文

3759
Ya13
資料室

子如
帝國新漢文

全



42453

教科書文庫

4
820
42-1941
20000 42626

516
1941



濟定檢省部文
科語國校學女等高 日三十月一十年六十和昭

女子帝國新漢文

全

文學博士 山口察常編

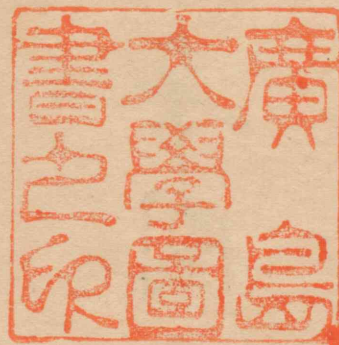
資料室

375.9
Y213



(畫壁館畫繪念記德聖)

賜下御語勅育教



子女帝國新漢文 目次

入門篇

- 一 句例 (二)
- 二 世界之公國
- 三 句例 (三)
- 四 日域三絕
- 五 句例 (三)
- 六 以人為寶
- 七 句例 (四)

藤田 彪
中村 和

一 三 四 五 六 九 一〇

八	所繫至大	近思錄	二
九	禍自口出	佐藤坦	三
一〇	健康	中村正直	三
一一	句例(五)		五
一二	以忘初爲誠	貝原篤信	五
一三	實祚無窮	日本書紀	六
一四	句例(六)		七
一五	清麻呂忠節	青山延壽	九
一六	句例(七)		一〇
一七	竹中重治	中村和	三
一八	拿破崙	岡本監輔	三
一九	兒島高德	賴襄	四

二〇	乃木大將	土屋弘	四
----	------	-----	---

〔自修文〕 (一) 爾靈山〔乃木希典〕

(二) 凱旋〔乃木希典〕

漢字之體

二一	五條誓文		七
----	------	--	---

二二	教育	三島毅	六
----	----	-----	---

〔自修文〕 大正天皇獎學勅諭

二三	教育勅語		九
----	------	--	---

本篇

一	大日本帝國		三
---	-------	--	---

二	文教始興	青山延子	三
三	敬神愛民	重野安釋	三
四	神宮	青山延壽	三
五	宮城	依田朝宗	三
六	道灌築江戸城	重野安釋	三
七	道灌學國歌	岡松辰	三
	<small>〔自修文〕 道灌借義圖〔大槻清崇〕</small>	豪	三
八	孟母三遷	求	三
九	故事三題	女論語	三
一〇	營家之女	德川光圀	三
一一	松下禪尼	貝原篤信	三
一二	勤儉治財		

一三	義農救饑	菊池純	三
一四	青砥藤綱	青山延子	三
	<small>〔自修文〕 勤儉以守吾業〔太宰純〕</small>		
一五	格言	戰國策	三
一六	假虎威	豪	三
一七	童子夙慧	求	三
一八	千利休	大槻清崇	三
一九	菅公忠愛	青山延子	三
二〇	復有十四歲乎	顧	三
	<small>〔自修文〕 十有三春秋〔顧善〕</small>		
二一	勉學三題	求	三
	一 餐雪之苦		

二	惜分陰	原	善	五
三	除日禱起	原	善	五
三	惜陰			
一				
二				
二	讀書之法	雨	森	東
二	紫姬清媛	德	川	光
二	櫻菊雙美	草	場	康
一	櫻花	白	居	易
二	菊花	青	山	延
二	燬酒燒紅葉	青	山	延
二	寒夜脫御衣	青	山	延

二八	故事	原	善	五
二九	仁齋化賊	原	善	五
三〇	義人吳鳳	岡	田	正
三一	上杉鷹山	重	野	安
一	孝百行之本	重	野	安
二	敬師	安	井	衡
三二	重盛諫言	賴	襄	益
三三	忠孝一本	藤	田	彪
三四	我國體	川	北	長
三五	格言	賴	襄	益
三六	楠木正成	賴	襄	益

自修文

楠公湊川戰死圖(大槻清券)

三七 楠木正行母

賴 襄 吉

三八 芳野三絶

梁川孟緯 吉

一

藤井啓吉

二

河野熊吉

三

德川光圀 吉

三九 父子殉節

青山延壽 吉

四〇 何恨不見花

女 誠 充 吉

四一 女有四行

中村和 吉

四二 春日局

大槻清崇 吉

四三 山内一豊妻

小 學 吉

四四 漢陳孝婦

竹添進一郎 吉

四五 雙殉行

四六 塚下之園

曾先之 吉

四七 感懷二首

杜 牧 吉

一 題烏江亭

吳 偉 業 吉

二 虞兮

德川光圀 吉

四八 詔勸農蠶

中村正直 吉

自修文 憫農(李紳)

川田剛 吉

四九 忠益說

蘇 軾 吉

五〇 畫鳥鎌倉游記

韓 愈 吉

五一 前赤壁賦

蘇 軾 吉

五二 故事三題

蘇 軾 吉

五三 師說

蘇 軾 吉

五四 格言

蘇 軾 吉



五五	前出師表
五六	蜀相
五七	弘道館記
五八	大學抄
五九	中庸抄
六〇	論語抄
六一	孟子抄

諸葛亮	二〇四
杜甫	二〇六
德川齊昭	二〇九
	一一三
	一一三
	一一五
	一一三

子女帝國新漢文

入門篇

一句例(二)

送假名句點	讀點	花開ク。	鳥啼ク。	花開キ、鳥啼ク。	梅花開キ、黃鳥啼ク。	山高シ。	湖闊シ。
		花開、	鳥啼、	花開、鳥啼、	梅花開、黃鳥啼、	山高、	湖闊、

山高ク、湖闊シ。 山高、湖闊。

富士山ハ高く、琵琶湖ハ闊シ。

富士山高、琵琶湖闊。

身體強健ナリ。 身體強健。

品行方正ナリ。 品行方正。

彼ハ身體強健ニシテ、品行方正ナリ。

彼身體強健、品行方正。

農ハ天下ノ大本ナリ。

農天下之大本也。

平重盛ハ、忠孝兩全ノ人ナリ。

〔之〕
〔也〕

〔者〕

平重盛者、忠孝兩全之人也。

我が國ハ、開闢以來、君臣ノ分定マレリ。

我國、開闢以來、君臣之分定矣。

觀ル者皆感歎セリ。

觀者皆感歎焉。

〔焉〕

〔矣〕

二 世界之公園

我大日本帝國、氣候溫和、土地肥沃、物產豐饒也。山水秀麗、花鳥風月、四時皆宜。眞世界之公園也。

肥沃 音「ヒョク」。
土地ノコエタルコト。
豐饒 音「ホウゼウ」。
ユタカニ多キコト。
秀麗 スグレテ美シキコト。

返點レ

三句例(二)

書ヲ讀ム。讀書。

文ヲ作ル。作文。

兄ハ書ヲ讀ミ、弟ハ文ヲ作ル。

兄、讀書、弟、作文。

山ニ登ル。登山。

水ニ泛ブ。泛水。

彼ハ山ニ登リ、我ハ水ニ泛ブ。

彼、登山、我、泛水。

雲ハ雨トナリ、露ハ霜トナル。

雲、爲、雨、露、爲、霜。

國憲ヲ重ンジ、國法ニ遵フ。

重、國憲、遵、國法。

智能ヲ啓發シ、徳器ヲ成就ス。

啓、發、智能、成、就、徳器。

皇國ノ興廢、此ノ一戰ニ在リ。各員奮勵努力セヨ。

皇國、興廢、在、此、一戰。各員奮勵努力。

〔在〕

返點 一・二

藤田彪 東湖ト號ス。水戸ノ人。徳川時代ノ學者。勤王家。安政二年(三三)歿ス。年五十。

四 日域三絶

藤田彪

鍾音「シヨウ」。訓「アツム」。聚ナリ。
蘊音「ウン」。訓「ツム」。積ナリ。

日出之域、冠絶萬國。鍾其神秀者、富嶽也。發其英華者、櫻花也。蘊其精氣者、寶劍也。

日本三景者、陸前松島・丹後天橋立・安藝嚴島是也。

〔是〕

五句例(三)

苦アレバ、必ズ樂有リ。

有苦、必有樂。

戰陣ニ勇ナキハ、孝ニ非ザルナリ。

戰陣無勇、非孝也。

光陰ハ矢ノ如ク、歲月ハ人ヲ待タズ。

〔無〕
〔非〕

〔有〕

〔如〕
〔不〕

朋有リ、遠方ヨリ來ル。

有朋、自遠方來。

病ハ口ヨリ入ル。

病從口入。

言フベクシテ、行フベカラザルナリ。

可言而不可行也。

學問ハ勉メザルベカラズ。

學問不可不勉。

劍利ナリト雖モ、厲カザレバ斷タズ。材美ナリ

〔不可不〕

〔可〕
〔不可〕

〔從〕

〔自〕

〔雖〕
厲音「レイ」。訓「ミ
ガク」。

〔難〕
〔易〕

〔與〕

〔所〕

ト雖モ、學バザレバ高カラズ。

劍雖利、不厲不斷。材雖美、不學不高。

功ハ成リ難クシテ破レ易ク、時ハ得難クシテ失
ヒ易シ。

功者難成而易破、時者難得而易失。

日月ト光ヲ争フ。

與日月争光。

富ト貴トハ、是レ人ノ欲スル所ナリ。

富與貴、是人之所以欲也。

人誰カ能ク過ナカラシ。過チテハ則チ改ムルニ

〔勿〕

憚ルコトナカレ。

人誰能無過。過則勿憚改。

中村和 栗園ト號
ス。豊前中津ノ人。
近江水口藩ノ儒
者。明治十四年(三
十五)歿ス。年七十
六。

歴數 一一數ヘタ
ツルコト。
曰ク……………」。

已 訓「ヤム」。

白旄 音「ハクバ
ウ」。軍隊ヲ指揮ス
ル旗。



徳川家康

六 以人爲寶

中村和

東照公、一日與豊太閤語。
太閤歴數其寶器曰、凡天
下珍器、我皆藏之。不知子
所寶何物。公答以無有。太
閤問之不已。公曰、僕有士
五百人。白旄所指、雖水火

六 以人爲寶

九

已 訓「ノミ」。默然 ダマツテ居ルサマ。

「日本智囊」六卷。中村和ノ撰。本朝ノ賢君・名士ノ事蹟ニシテ知略ニ涉ルモノヲ輯録セリ。

不避^ケ所^ハ寶^{トスル}是^レ已^ト。太閤默然^{トシテ}有^リ愧^{ツル}色[。]〔日本智囊〕

七句 例(四)

學ニ志ス。

志^ス於^ニ學^ニ。

花ヲ山中ニ見ル。

觀^ル花^ヲ於^ニ山^中。

父母ノ恩ハ山ヨリモ高ク、海ヨリモ深シ。

父母之^ハ恩^ハ高^ク於^ニ山^中、深^シ於^ニ海^中。

源賴朝、幕府ヲ鎌倉ニ開ク。

〔于〕ニヨリ

源賴朝、開^ク幕府^ヲ于^ニ鎌倉^ニ。

健康ノ福ハ、財寶ヨリ大ナリ。

健康之^ハ福^ハ大^ニ于^ニ財寶^ニ。

德望一世ニ高シ。

德望^ハ高^シ乎^ニ一^世。

孝子ノ至リハ、親ヲ尊ブヨリ大ナルハナシ。

孝子之^ハ至^リ、莫^シ大^ニ乎^ニ尊^ブ親^ヲ。

〔乎〕ニヨリ

八 所繫至大

〔近思錄〕

慎^ニ言^ヲ語^ヲ、以^テ養^ヒ其^ノ德^ヲ、節^シ飲^ム食^ヲ、以^テ養^フ其^ノ體^ヲ、事^ニ之^ニ至^ス

「近思錄」十四卷。支那宋時代ノ朱熹・呂祖謙ノ共撰。

繫訓「カカル」。關

係ス。

〔莫〕

佐藤坦 一齋ト號

ス。徳川時代ノ儒

者。安政六年(五二

〇)歿ス。年八十六。

速訓「マネク」。招

ナリ。

〔言志録〕四卷。佐

藤坦ノ撰。別ニ言

志後録・言志晩録・

言志叢錄アリ。併

セテ言志四録トイ

フ。

中村正直 數字ト

號ス。東京ノ人。

文學博士。明治二

十四年(五三)歿ス。

年六十。

〔則〕

返脚 上・下

近ニシテ而所繫至大者、莫シ過ヘ言語・飲食。

九 禍自口出

佐藤坦

口之職、兼ニ一用。出シ言語、納ル飲食、是也。不レ慎マ於
言語、足リ以テ速ク禍、不レ慎マ於飲食、足ル以テ致ス病。諺云、
禍自口出、病自口入。〔言志録〕

一〇 健康

中村正直

古人曰、健康之福、大ニ於財寶。何則財寶者、可ク
由リ健康而得、健康者、不レ可ク以テ財寶而求也。

一一 句例(五)

恩ハ當ニ報ユベク、怨ハ當ニ忘ルベシ。

恩當報、怨當忘。

當ニ美名ヲ後世ニ傳フベシ。

當傳美名於後世。

凡ソ邦人ノ學ヲ爲スハ、當ニ先ツ我が國體ノ宇
内ニ冠絶スル所以ノモノヲ知ルベシ。

凡邦人爲學、當先知我國體所以冠
絶宇内者。

〔當〕

〔將〕

春將ニ暮レントス。

春將暮。

將ニ往キテ、歐洲ニ遊バントス。

將往遊歐洲。

汝未ダ漢文ニ通ゼズンバ、須ラク反復講習スベシ。

汝未通漢文、須反復講習。

宜シク身ヲ修ムルヲ以テ本ト爲スベシ。

宜以修身爲本。

宜シク才徳ヲ備フル者ヲ得テ、コレヲ友トスベシ。

〔宜〕

〔未〕

〔須〕

返點 甲・乙

〔盍〕 〔何不〕

〔猶〕

シ。

宜得備才徳者友之。

汝盍ゾ論語ヲ讀マザル。

汝盍讀論語。汝何不讀論語。

神器ノ尊嚴ナルハ、猶ホ日星ノ天ニ在ルガゴトシ。

神器尊嚴猶日星在天。

一三 以忘初爲誠

貝原篤信

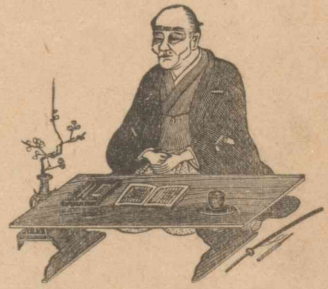
衆人居富多忘貧。須節儉而無奢侈。居貴多

貝原篤信 字ハ子誠。益軒ト號ス。筑前ノ人。徳川時代ノ儒者。正徳四年(一七二四)歿ス。年八十五。

存恤 音一ソソンジ
 ヌツ。ナダサメ
 アハレムコト。
 疏 音「ソ」。オロン
 カ、ウトソズ。
 慕 音「ソ」。オモヒシタ
 ノコト。
 澹 音「ソ」同ジ。
 「慎思錄」六卷。貝
 原篤信ノ撰。經義
 論文等ノ斷片的輯
 録ナリ。

「日本書紀」三十卷。
 天武天皇ノ第三皇
 子舍人親王撰シ給
 フ。我が國最古ノ
 歴史。

勅 誡ムルナリ。敕
 ニ同ジ。



貝原篤信

忘故舊。當存恤而不疏。歲長
 多忘父母。須終身思慕。病癒
 多忘慎。須常思病苦時。凡自
 修者。當以忘初爲誠。
（慎思錄）

一三 寶祚無窮

〔日本書紀〕



舍人親王

天照大神、賜皇孫天津彦
 彦火瓊瓊杵尊三種神寶、
 因勅曰：「視此鏡、猶視吾葦
 原千五百秋之瑞穗國、是

爾汝ニ同ジ。

寶祚 天皇ノ御位。
 天壤 天地ナリ。

吾子孫可王之地也。宜爾皇孫就而治焉。行
 矣。寶祚之隆。當與天壤無窮者矣。

一四 句例(六)

生徒ヲシテ漢文ヲ學バシム。

使生徒學漢文。

子弟ヲシテ書ヲ讀マシム。

令子弟讀書。

敵國、人ヲ遣ハシテ和ヲ乞ハシム。

敵國遣人請和。敵國遣人請和。

〔遣〕

〔令〕

〔使〕

〔命〕 〔被〕 〔見〕 〔于〕 〔乎〕 〔於〕 〔爲……所〕

先生生徒ニ命ジテ文ヲ作ラシム。

先生命生徒作文。

功ヲ以テ賞セラル。以功被賞。

戰敗レテ擒ニセラル。戰敗見擒。

彼ハ人ニ養ハル。彼養于人。

彼ハ朋友ニ信ゼラル。彼信乎朋友。

彼ハ親ニ悦バレズ。彼不悅於親。

先ズレバ則チ人ヲ制シ、後ルレバ則チ人ノ制スル所トナル。

先則制人、後則爲人所制。

士ハ己ヲ知ル者ノ爲ニ死ス。

士爲知己者死。

師ハ道ヲ傳フル所以ナリ。

師者所以傳道也。

青山延壽 鐵槍ト

號ス。水戸ノ人。

治三十九年(五十六)

歿ス。年八十九。

孝謙天皇 第四十六

代ノ天皇。御在位

十年。

不軌。音「フキ」。

不法ナルコト。

奉幣。神ニ幣帛。

供物ヲササグルコト。即チ參拜シテ御祈リスル意。

一五 清麻呂忠節

青山延壽

孝謙天皇朝、僧道鏡謀不軌。天皇令和氣清

麻呂詣宇佐

奉幣八幡宮。

清麻呂歸復



和氣清麻呂

〔未之有也〕
 覬覦 音「キユ」
 望ムマジキコトヲ
 ウカガヒ望ムコ
 ト。
 翦除 音「センジ
 ヨ」キリノゾクコ
 ト。
 「皇朝金鑑」五十五
 卷。青山延壽ノ撰。
 本朝ノ人物ノ逸
 事・逸聞ヲ記述シ
 タルモノ。

命曰、「臣親受神勅云、我國家開闢以來、君臣
 分定矣。以臣爲君、未之有也。天日嗣、必立皇
 緒。而道鏡何者、敢覬覦神器。大逆無道、宜早
 翦除焉。道鏡大怒、流清麻呂於大隅。」〔皇朝金鑑〕

謙——嫌——鎌——隅——偶——遇

一六句 例 (七)

何ゾソノ盛ナルヤ。 何其盛也。
 何ゾ畏ルルニ足ランヤ。 何足畏乎。
 我焉ンゾ勉メザルヲ得ンヤ。

〔焉……耶〕

我焉得_レ不_レ勉耶。——我不得_レ不_レ勉。

〔安……哉〕

安ンゾ用フルニ足ランヤ。
 安足_レ用哉。——不足_レ用。

人安ンゾソノ父母ヲ敬ハザル者アラシヤ。

人安有_レ不_レ敬_二其_一父母者乎。——人無_レ不_レ敬_二其_一父母者。

〔豈……哉〕

豈疑フベケンヤ。 豈可疑哉。——不可疑。

〔豈……乎〕

豈報ヲ望マンヤ。 豈望報乎。——不望報。

禽獸スラ且恩ヲ知ル、況ヤ人ニ於テチヤ。

〔況……乎〕

禽獸且知恩、況於人乎。

安ンゾ力ヲ竭シ、精ヲ勵ミ、以テ父ノ志ヲ繼ガザルベケンヤ。

安可不竭力、勵精以繼父志乎。

嗚呼、壯ナルカナ。嗚呼、壯哉。

可不...乎
嗚呼...哉

竹中重治 通稱ハ

半兵衛。美濃ノ人。豊臣秀吉ノ臣。兵法ニ通ズ。天保七年(四九)歿ス。年三十六。

僚佐 參謀役。之 訓「ユク」。行ナ

溺 音「ネウ」。訓「ユバリ」。尿ニ同ジ。

〔寧〕 乎

一七 竹中重治

中 村 和

竹中重治、精通兵法、爲豊太閤所重。一日集僚佐談軍事。其子左京、尙少在座。遽起而出。重治曰、「汝何之。」對曰、「欲溺。」重治曰、「寧坐溺武人論兵、豈有談未終而起者乎。」(日本智藝)

便溺——耽溺 行——往——之 座——坐

岡本監輔 韋庵ト

號ス。第一高等學校教授タリ。明治三十七年(五六)歿ス。年六十五。

英邁 音「エイマ

イ」。又キンデスグレタルコト。

周密 テヌカリノ

ナキコト。

服膺 音「フクヨウ」。心ニ入レテヨク守ルコト。

癡 痴ニ同ジ。

一千八百年 我ガ

寛政十二年(四六)。

〔豈有...哉〕

一八 拿破崙

岡 本 監 輔



拿破崙

拿破崙、天資英邁、勤敏周密、不厭勞苦。居恆服膺剛毅志氣、卽眞誠才智之語。嘗曰、「不能二字、是特癡人所要耳。宜刪去於辭書。」一千八百年、將兵赴伊太利。衆言「阿爾伯山阻於前。拿破崙曰、「豈有阿爾伯妨我哉。」直開一路通軍。

震駭 フルヒオド
ロムコト。

頼襄 字ハ子成。通稱ハ久太郎。山陽ト號ス。安藝ノ人。徳川時代ノ儒者。歴史家。詩文家。天保三年(一八三二)歿ス。年五十三。
土屋弘 鳳洲ト號ス。和泉岸和田ノ人。明治時代ノ漢學者。大正十一年(一九二〇)歿ス。年八十六。
或 旅順ノ降將ステツセル。
乃木大將 名ハ希典。陸軍大將。伯爵。露ノ戰ニハ第三軍司令官トシテ旅順ヲ攻メ之ヲ陥ル。大正元年(一九一一年)九月十三日自刃ス。年五十四。
二子 兄ハ勝典、弟ハ保典。同死ス。十一月二十三日於テ戰死ス。
明治三十七年(一九〇四)南山ノ役ニ戰死ス。弟ハ保典。同死ス。

泣然 音「ゲンゼン」
涙ノ流ルルサマ。

〔耳〕
〔何……哉〕
〔可以〕

爾靈山 二〇三高
地。旅順背後ノ險要。我軍ノ旅順ヲ陥レシハ二〇三高地ヲ占領セシニ因ル。

伊人大震駭イニセリ 小學新編

一九 兒島高德

高德曰、吾聞志士仁人有殺身以成仁。見義不爲無勇也。蓋要奪駕以舉義。衆奮從之。



將大木乃

二〇 乃木大將

旅順既降。或訪乃木大將。賀戰捷。且弔其二子。

戰歿。大將泣然曰、七月以來、我喪幾萬愛兒矣。如吾二兒、守平生訓言耳。何足深悲哉。嗚呼、此一語、可以泣神人矣。

捷…勝也 大捷—捷報 捷…敏也 敏捷

自修文

(一) 爾靈山 (ニイロウイン)

乃木希典

爾靈山險豈難攀

男子功名期克艱

鐵血覆山山形改

萬人齊仰爾靈山

(二) 凱旋

乃木希典

王師百萬征驕虜

野戰攻城屍作山

愧我何顏看父老

凱歌今日幾人還

【參考】 漢字之體

漢字之體、在左曰扁、在右曰旁、在上曰冠、在下曰脚、或曰構、或曰垂、或曰邊、今舉其一斑。

【扁】イ (仁信) ヲ (河清) 木 (桐梅) 糸 (紅綠)

【旁】リ (利劍) 斤 (斬斷) 頁 (頭額) 邑 (郡都)

【冠】ハ (字室) 艸 (竹筍) 艸 (花葉) 雨 (雪霜)

【脚】心 (忠恕) 火 (烈照) 皿 (盆盤)

【構】口 (國圖) 門 (關關) 門 (關關)

【垂】厂 (原厚) 广 (府庫) 疒 (疾病)

【邊】走 (延建) 走 (赴越) 辵 (通道)

三月 十四日ナリ。

二一 五條誓文

明治元年三月、天皇御紫宸殿、率公卿諸侯、誓天神地祇、約五事、大定國是。曰、廣興會議、萬機決于公論。曰、上下一心、盛行經綸。曰、官武一途、至庶民各遂其志、使人心不倦。曰、破舊來之陋習、基天地之公道。曰、求智識於世界、大振起皇基。是謂五條誓文。

三島毅 中洲ト號
 ス。備中ノ人。東
 宮侍講トナル。大
 正四年(五七五)歿
 ス。年九十。
 改元 年號ヲアラタ
 メル。
 教化 教ヘミナヒク
 コト。
 洽 音「カフ」。訓「ア
 マネシ」。

遵由 シタガヒヨル。
 遵ハ循ナリ。
 駁 駁ハヤクスム
 サマ。
 餘澤 アリアマルメ
 グミ。

三三 教育

三 島 毅

明治改元、王政維新始、憂學制之不備、教化之不洽、五年、布新令、命鄉村設小學校、士民兒童皆就學。又設中學校、高等學校、大學及專門學校、益廣進修之門戶。二十三年、下教育勅語、令國民知所遵由、自是海內駁駁向學、遂致今日之盛焉。眞昭代之餘澤也。

【自修文】 大正天皇獎學勅諭

大正天皇即位。特召文部大臣勅曰、

皇考夙勞心教育、定制布令、昭其大綱。朕紹述遺緒、欲倍圖其振興。方今人文日進、在任教育者、宜體朕意、以對揚皇考彝訓。

三三 教育勅語

教育勅語 明治二
 十三年(五五〇)十月
 三十日御下賜ノ勅
 語。

朕惟、吾皇祖皇宗、肇國宏遠、樹德深厚。吾臣民、克忠克孝、億兆一心、世濟厥美。此我國體精華、而教育淵源、亦實存乎此。爾臣民、孝于父母、友于兄弟、夫婦相和、朋友相信、恭儉持已、博愛及衆、修學習業、以啓發智能、成就德

器進廣公益開世務常重國憲遵國法一旦
 緩急則義勇奉公可以扶翼天壤無窮之皇
 運矣。如是不獨朕忠良臣民又足以顯彰爾
 祖先遺風矣。
 斯道也實吾皇祖皇宗之遺訓而子孫臣民
 所當俱遵守也。通諸古今而弗謬施諸中外
 而弗悖庶幾朕與爾臣民俱拳拳服膺咸一
 其德。

本篇

一 大日本帝國

大日本帝國在亞細亞洲東氣候溫和土壤肥沃物
 產豐饒山水亦秀麗建國以來二千六百年皇統一
 系君仁臣忠國體之美冠絕宇內。

二 文教始興

應神天皇十五年百濟遣阿直岐貢良馬阿直岐通
 經典太子菟道稚郎子從而學焉天皇問阿直岐曰

二千六百年 昭和
 十五年ハ、皇紀二
 千六百年ニ當ル。

青山延子 拙齋ト號
 ス。延壽ノ父。水
 戸藩ノ儒臣。天保
 十四年(三五)三
 歿ス。年六十八。

經典 經書ナリ。

秀 スグレタル秀
才。

「皇朝史略」十二
卷。青山延子ノ撰。
神武天皇ヨリ後小
松天皇ニ至ル漢文
歴史ナリ。

重野安繹 成齋ト
號ス。薩摩ノ人。
漢學・史學ニ長ズ。
文學博士。明治四
十三年(一五〇)歿
ス。年八十四。

明治天皇 御諱ハ
睦仁。明治四十五
年(一七三)崩ズ。御
年六十一。
六合 晉「リクガフ」
東西南北上下ヲイ
フ。

報效 恩ニ感ジテ
カヲ盡スコト。

「汝國有博士賢於汝者乎。對曰。有王仁者。一國之秀也。天皇乃遣荒田別。徵王仁。十六年。王仁來朝。獻論語十卷。千字文一卷。文教興始此。」(皇朝史略)

三 敬神愛民

重野安繹

明治天皇至仁至聖。敬神愛民。勵精圖治。在位四十五年。國運之昌盛。前古無比。國威洽于六合。御製曰。長爾民安。加禮登祈。留奈留。我世乎護禮。伊勢乃大神。拜讀之者。誰不感激。期報效。(天日本維新史)

四 神宮

青山延壽

上 邊ナリ。

〔葺以……〕
殿宇 オミヤ。

文 訓「カザル」。修
飾ナリ。

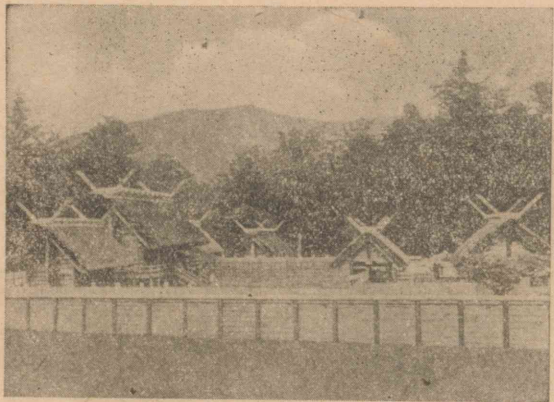
敬仰 ウヤマヒアガ
メル。

鬱鬱葱葱 樹木ノ茂
リテ佳氣アルサ
マ。

豐受大神 五穀ノ
神。

規制 ツクリ。カマ
ヘ。

「大八洲遊記」十三
卷。青山延壽ノ撰。



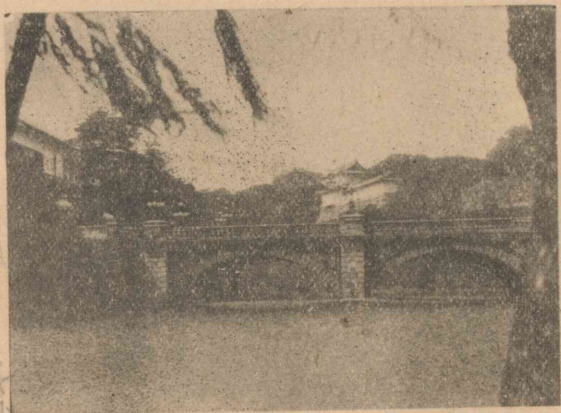
神宮

五十鈴川上。祠天照大神。世稱內宮。神殿葺以茅。殿宇不崇高。左右有寶殿。有神門。皆係茅葺。儉德不文。以存上古遺風。眞可敬仰也。宮外老樹參天。鬱鬱葱葱。蓋千年外物。使人悚然。外宮在山田。祠豐受大神。殿宇規制。與內宮無異。(天八洲遊記)

依田朝宗 學海ト號ス。下總佐倉ノ人。明治四十二年(二五六九)歿ス。年七十七。

鬱蒼 音「ウツサウ」。青背トシテコンモリ茂ル。
巖巖 音「アイタイ」。雲ノ盛ニタナビクサ。
樓閣 音「ロウカク」。タカドノ。
臺榭 音「ダイシャ」。見ハラナ臺。樹ハ屋根ノアル物見臺。
瞻 音「セン」。仰ギ見ル。
〔非無故〕
茵 音「サ」。シバクサ。
茵 「イン」。シトネ。

五宮城



依田朝宗

城外平坦細莎如茵，道路縱橫有楠木中將銅像立。宮城在東京市中央，周圍繞以深濠，有櫻田大手半藏等諸門。二重橋爲正門。城內古松鬱蒼，瑞雲巖巖，可以見太平氣象矣。正殿豐明殿、樓閣臺榭，隱現樹間。人民徘徊瞻望，有垂淚拜伏者，非無故也。

洵 訓「マコトニ」。信ナリ。
煌 「クワク」。光リカガヤク。

太田道灌 室町時代ノ武將。文明十八年(三四〇)歿ス。年五十五。
雄邁 音「ユウマイ」。氣象スグレテ強シ。
上杉定正 關東管領。鎌倉扇谷ニ住ム。
輔翼 音「ホヨク」。タスケル。
江戸城 長祿元年(二二七)築城。天正十八年(三五〇)家康入城。
眺矚 音「テウシヨク」。遠クナガムルコト。
天子 第百〇三代後土御門天皇。時ニ寛正五年(三二四)ナリ。

焉。洵偉觀也。宮城内外置電燈數十基，煌若白晝。

六道灌築江戸城

重野安釋



太田道灌名持資。雄邁有文武才。仕上杉定正，竭心輔翼。相地武藏野，創築江戸城。濠深壁堅，營靜勝軒城中。西對富嶽，東望海洋，極眺矚之勝。嘗朝於京師，天子勅問其風景。獻歌對曰：我庵波松原，續幾海近。久富士乃高嶺，遠軒端仁。

「帝國史談」二卷。重野安釋ノ撰。

曾見流。〔帝國史談〕

岡松辰 菊谷ト號

ス。豊後ノ人。明治二十八年(三五五)

歿ス。年七十六。

蓑衣 音「サイ」。ミ

ノ。蓑ハ蓑トモ書ク。

棗棠 音「テイタウ」。

ヤマブキ。

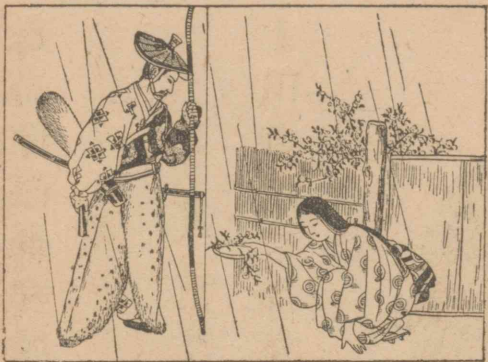
懽 訓「ヨロコブ」。

古歌有言 古歌ハ

兼明親王ノ作。後拾遺集ニ見ユ。

七 道灌學國歌

岡松辰



圖棠棗進女少

太田道灌嘗放鷹於野。會雨俄至。過民家借蓑衣。少女折棗棠一枝以進。道灌不懽而去。或謂道灌曰「古歌有言、七重八重、花波咲計登毛、山吹乃實乃一都太仁、無機會悲志機」。蓋邦訓實乃與蓑衣相通。女子

遵 訓「シタガフ」。

候 訓「ウカガフ」。

何ナリ。

須臾ニシバラク。

古歌云 僧曉月ノ作。

「初學文軌」三卷。岡松辰ノ撰。

大槻清崇 磐溪ト號

ス。徳川時代ノ儒者。明治十一年(三五〇)歿ス。年七十八。

意訴家貧不藏蓑衣也。道灌大愧。自是折節讀書。學和歌。究奧義。後率兵入下總。夜自山下遵海而進。衆恐潮未退。道灌驅馬出候。潮須臾還。報曰「潮涸矣」。衆問其故。曰「古歌云、遠久奈利。近久鳴海。乃濱千鳥。鳴久音仁。潮乃滿。干遠曾知留。適聞鳥聲在遠。所以知潮涸也」。遂進兵。果如其言。〔初學文軌〕

自修文 道灌借蓑圖

大槻清崇

孤鞍衝雨叩茅茨。少女不言花不語。

少女爲遺花一枝。英雄心緒亂如絲。

孟母三遷

〔蒙 求〕

「蒙求」三卷。支那
唐時代ノ李瀚ノ
撰。
孟子 名ハ軻。字ハ
子輿。「孟子」七篇
ヲ撰ス。

徙 訓「ウツル」。移
ナリ。

學宮 學校。

俎豆 音「ソトウ」。
祭祀ニ用フル器
具。



孟母斷機圖

孟子三歲喪父。母賢。其舍近墓。孟子少嬉遊爲墓間
之事。母曰「此非吾所居子之地也」。乃去舍市傍。其嬉
戲爲市上之事。又曰「此非吾所居子之地也」。復徙舍
學宮之傍。其嬉戲乃設
俎豆習禮儀。母喜曰「眞
可以居吾子矣」。孟子既
長出就外師。及學而歸
母問學所至。孟子曰「如

中道 途中。中途ニ
同ジ。

五常 兄弟五人何レ
モソノ字ニ常ノ字
ヲ有スルヨリイ
フ。

「三國志」六十五卷。
魏・吳・蜀三國ノ事
蹟ヲ記述シタル史
書。

「荀子」二十卷。荀
況ノ撰。聖人ノ道
ヲ述ベタル書。荀
況ハ支那戰國時代
ノ人。

河 發語ノ辭。
孫權 吳ノ主。
魯肅 吳ノ將。

舊母以刀斷機上織曰「汝中道廢學猶吾斷此織也」
孟子懼旦夕勤學不息遂成大賢。

九 故事三題

○白眉 蜀馬良字季常兄弟五人並有才名鄉里
爲之諺曰「馬氏五常白眉最良」良眉中有白毛故以
稱之。〔三國志〕

○出藍 學不可以已青出於藍而青於藍冰水爲
之而寒於水。〔荀子〕

○吳下阿蒙 孫權將呂蒙初不學權勸蒙讀書魯

刮目 日ヲ拭ヒテ
觀ヲ改ムルヲイ
フ。

「十八史略」七卷。
支那元時代ノ曾先
之ノ撰。史記・前漢
書以下ノ十八史ヲ
摘録シテ、初學者
ノ讀本トシタルモ
ノ。

「女論語」支那唐時
代ノ宋若昭ノ撰。

懶 音「ラン」。怠ル
コト。

因循 音「インジュ
ン」。グツグツシテ
ハカドラヌコト。

寅 寅ノ刻。即チ今
ノ午前四時頃。

德川光圀 水戸藩
主。別稱水戸黃門。
義公ト諡セラル。

敬神・尊王ノ念篤
シ。元祿十三年(二
三〇)歿ス。年七十
三。

肅後與蒙論議。大驚曰、「卿非復吳下阿蒙。」蒙曰、「士別

三日、即當刮目相待。」〔十八史略〕

一〇 營家之女

〔女論語〕

營家之女、惟儉惟勤。勤則家起、懶則家傾。儉則家富、奢則家貧。凡爲女子、不可因循。一生之計、惟在於勤。一年之計、惟在於春。一日之計、惟在於寅。

〔自修文〕 倉廩實而知禮節、衣食足而知榮辱。〔管子〕

一一 松下禪尼

德川光圀

北條時賴 北條第
五代ノ執權。

禪尼 女子ノ佛門
ニ入レル者ノ稱。

治具 音「チゲ」。
接待ノ準備ヲナス
コト。

糊補 音「コホ」。切
リ張リスルコト。

紙格 障子ノコワ
ク。

〔不之知〕

兒輩 時賴ヲ指ス。

政理寧靜 政治ガ
ヲサマリ、天下ノ
安寧ナルコト。

〔大日本史〕四百〇
三卷。德川光圀ノ
撰。神武天皇カラ
後小松天皇マデノ
漢文ノ紀傳體國
史。明治三十九年
(一九〇六)完成。



松下禪尼糊補紙格圖

北條時賴母安達氏、秋田城介景盛女也。稱松下禪尼。嘗爲時賴設食。兄義景來助治具。尼方手裁小紙。糊補紙格。義景請命人爲之。尼不顧。義景曰、「補之不若新之之。省勞。」尼曰、「我豈不之知乎。凡物有小破、宜修補之。欲使兒輩知此意耳。」人謂時賴克守勤儉政理寧靜亦母教之使然也。〔大日本史〕

一二 勤儉治財

貝原篤信

振古 オホムカシ。

貪 音「タン」。訓「ムサボル」。
吝 音「リン」。訓「ヲシム」。
費 ムダツカヒ。

敬愛

原 貝 信 篤 筆 蹟

一 勤儉二者、治國保家之道也。怠奢二者、亡國破家之道也。蓋勤業者、不怠惰以失時。儉用者、不奢侈以傷財。凡振古以來、家國之興也、無不由于勤儉者、其亡也、無不由于怠奢者也。〔慎思錄〕

二 治財之道、其可禁者有三。貪、吝、費也。貪則所求非其分、所得非其有、是犯乎人。吝則當其禮而不行、可與而不與、是私乎己也。費則放蕩而不節用、此取貧

老七(治)者蓋五(治)也
一、勤は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
二、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
三、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
四、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
五、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
六、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
七、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
八、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
九、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず
十、儉は小(心)を怠(ら)ず、時(を)失(は)ず

窮之道也。此三者、非治財之道也。〔慎思錄〕

三 君子棄其財、而救貧窮者、非不愛其財。愛其財、甚而欲用之、德義也。故能賑恤貧窮者、視其平生用財、必儉約不妄費之士也。不能救貧窮者、必驕奢妄費之人也。〔慎思錄〕

一三 義農救饑

菊池純

寬保二年秋七月、畿内及東海、東山、北陸大水。人民溺死無算。相模豪農荻生正卿、慨然請父曰、「大人平

〔非不……〕
愛 訓「ヲシム」。大切ニスル。惜シム。賑恤 音「シンジユツ」。ニギハシメグムコト。
〔不妄……〕

菊池純 三溪卜號
ス。紀伊ノ人。徳川家茂將軍ノ侍講トナル。明治二十四年(三五)歿ス。年七十三。
寬保 第百十五代櫻町天皇ノ年號。二年(四〇〇) 大人 オ父サン。

〔豈非……耶〕
賑救「音」シシキウ。
倉廩「音」ソウリン。
磨「音」クンシ。
吉宗「音」キチムネ。
門閭「音」カド。
善行「音」ゼンギョウ。
襃表「音」ホウヒョウ。
旗表「音」チヒョウ。
國史「音」クニシ。
滑河「音」カワ。
青砥藤網「音」アヲ。
人「音」ヒト。
吏「音」シ。
北條「音」キタヤウ。
引附「音」ヒキツケ。
由井「音」ユヰ。
海「音」ウミ。
竟「音」ケイ。

素守以節儉。豈非備今日之用耶。願散蓄積。以得賑救之。交許之。乃大發倉廩。饑民麇至。每人與米四升。更爲粥食之。既而穀竭矣。乃馳入四方。買米及雜穀。給之。金又盡矣。質田以繼之。至明年四月而止。其所全活。六百餘人。惠及四十八村。將軍吉宗。襃賞賜錢帛。旌表門閭。〔國史略〕

一四 青砥藤網

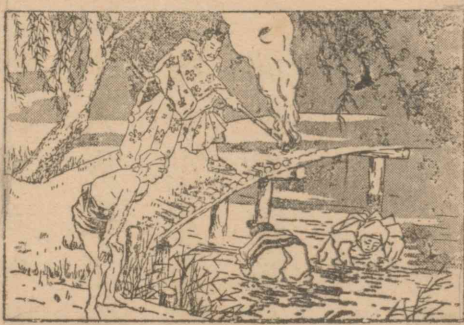
青山 延于

青砥藤網。嘗夜行過滑河。誤墜錢十文於水。藤網乃出錢五十文買炬。雇夫照水搜索。竟獲之。或笑其得

〔不亦大乎〕

線帛「音」ケンバク。
飭「音」チヨク。
「イマシム」。

太宰純 春臺ト號ス。信濃ノ人。徳川時代ノ儒者。延享四年(二四七)歿。年六十八。直 但ナリ。



藤網索錢圖

不償失。藤網曰。不爾。十錢雖小。失則永損世寶。五十錢布在民間。彼此六十錢。終不失一錢。其利不亦大乎。聞者歎服。藤網性好施與。所入俸祿。悉賑貧困。自奉甚薄。衣無縑帛。其在職。廉潔剛直。不憚權貴。於是奸吏斂迹。人人自飭。風俗頓革。

自修文 勤儉以守吾業

太宰純

〔皇朝史略〕

勤者所以生財也。儉者所以足財也。直勤不儉。財有不足。直儉不勤。財無其原。二者皆不給之道也。克勤克儉。以守吾業。何生

〔産語〕二卷。太宰純ノ撰。

〔禮記〕支那周末秦漢時代ノ諸學者ノ古禮ニ關スル學說等ヲ輯録シタル書。

〔戰國策〕三十三卷。支那戰國時代ノ策士ガ諸侯ニ述べタル策略ヲ集メタル書。

〔後漢書〕二百十卷。支那後漢一代ノ事蹟ヲ記シタル書。

〔史記〕百三十卷。支那漢時代ノ司馬遷ノ撰。黃帝ヨリ漢ノ武帝マデノ事ヲ記シタル史書。

〔書經〕唐虞ヨリ秦穆ニ至ル史實・思想ヲ記シタル支那最古ノ經典。

之不_レ治_レ哉。〔産語〕

一五 格言

○玉不_レ琢_レ不成_レ器、人不_レ學_レ不_レ知道。〔禮記〕

○行_レ百里者半_ニ九十。〔戰國策〕

○不_レ入_レ虎穴、不_レ得_レ虎子。〔後漢書〕

○家貧則思_レ良妻、國亂則思_レ良相。〔史記〕

○滿招損、謙受益。〔書經〕

一六 假虎威

〔戰國策〕

天帝 天ノ神。

〔敢不…〕

虎求_ニ百獸_ヲ而食_フ。得_レ狐。狐曰、「子無_レ敢_テ食_フ我_ヲ也。天帝使_シ我_ヲ長_ニ百獸_ニ。今子食_フ我_ヲ、是逆_ニ天帝_ノ命_也。子以_テ我_ヲ爲_シ不_レ信_ト、吾爲_シ子_ヲ先_ニ行_セ。子隨_ニ我_ヲ後_ニ觀_ヨ。百獸之見_テ我_ヲ、而敢_テ不_レ走_ラ乎。虎以_テ爲_ス然_リ。故遂_ニ與_ニ之_ヲ行_ク。獸見_テ之_ヲ皆走_ル。虎不_レ知_ル獸畏_レ己_ヲ而走_ル也。以_テ爲_シ畏_レ狐_也。

一七 童子夙慧

〔蒙 求〕

宋、司馬溫公、幼時與_ニ群兒_ヲ戲_シ。一兒誤墮_リ於_ニ水甕_中。群兒喧嘩_シ皆棄_テ去_リ。獨公以_テ石破_リ甕_ヲ取_リ兒_ヲ。兒因得_レ不_レ死。宋、文潞公、幼時與_ニ群兒_ヲ擊_ツ毬_ヲ。毬入_リ於_ニ柱穴_中。不_レ能_テ取_ル。

夙慧 音「シユクケイ」。幼クシテ賢キコト。
司馬溫公 名ハ光。支那宋時代ノ名臣。博學ニシテ「資治通鑑」ヲ撰ス。
甕 音「フウ」。甕「カメ」。
喧嘩 サワガシクイヒアラソフコト。
文潞公 名ハ彥博。支那宋時代ノ名臣。

髻鬢音「テウシン」
髻ハ髮ヲ垂ル、鬢
ハ齒ノ抜ケ代ルコ
ト。七・八歳ノ幼兒
ヲイフ。

千利休 名ハ宗易。
泉州堺ノ人。茶人。
千家流ノ祖。天正
十九年(三五)歿ス。
年七十一。

左海 泉州堺浦。
紹鷗 武野紹鷗。泉
州堺ノ人。茶人ノ
先哲。弘治元年(二
三五)歿ス。年五十
二。

盧・陸 唐ノ盧同・
陸羽ノ二人。共ニ
茶道ニ通ズ。

瀟灑音「セウシヤ」。
サツバリシテキレ
イナルコト。
〔無復……〕
〔近古史談〕四卷。
大槻清崇ノ撰。織
豊・徳三代ノ名將・
勇士ノ言行ヲ記
ス。

公以水灌之。則毳浮出。二公之仁智蓋已見。髻鬢時
矣。

一八 千利休

大槻 清 崇

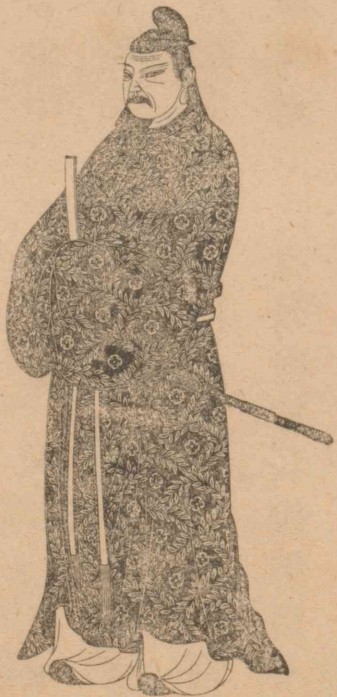
利休學茶儀於左海人紹鷗。紹鷗斯道之盧陸也。嘗
欲試利休才。命掃除庭中。諾而往。則茶亭之前。帚痕
如拭。不留纖塵。林樹瀟灑。青翠欲滴。利休躊躇無復
下手處。竟入林中。試搖其一樹。則墜葉翻風。片片點
地。殊覺添一段風趣。乃報曰。謹了命矣。紹鷗視之。感
其奇才。盡傾祕訣而授焉。利休得宗匠名。始于此。〔近古史談〕

一九 菅公忠愛

青山 延 子

菅原道眞 謬議是壽
ノ第三子。宇多天
皇ニ信任セララル。
醍醐天皇御即位ノ
後、藤原時平ノ讒
ニヨリ太宰府ニ貶
セラレ、延喜三年
(三五)配所ニ歿
ス。年五十九。
五朝 清和・陽成・光
孝・宇多・醍醐ノ五
天皇。
宇多天皇 第五十九
代。御在位十年。
承平元年(五九)崩
ス。御年六十五。
自遣 獨リ慰ムルコ
ト。
無聊 音「アレウ」。無
聊ニ同ジ。心ニタ
ヨリナクサビシキ
コト。
重陽 五節句ノ一。陰
曆九月九日ノ節句。
コトハ醍醐天皇ノ
昌泰四年(天二)九
月九日ノ重陽ヲサ
ス。

菅原道眞、歷事五朝、尤爲宇多天皇所親任。天皇嘗
好游獵。道眞
諫止之。隨事
獻替多所匡
救。後以讒貶
爲太宰權帥。道眞在配所。閉門不出。託文墨自遣。雖
謫居無聊。未嘗忘忠愛之意。會重陽後一日。賦詩曰。
去年今夜侍清涼。 秋思詩篇獨斷腸。



眞道原菅

〔未嘗…〕
〔莫不…〕

賴宣 家康ノ第十子。紀州侯ノ祖。茶白山 大阪天王寺ノ西南ニアリ。攬涙 手ニテ涙ヲウクルコト。前途修遠 ユクサキノ長キヲイフ。修ハ長ノ意。首功 敵ノ首ヲトリシ功。〔日本外史〕二十二卷。頼襄ノ撰。源平二氏ヨリ徳川氏ニ至ル武家ノ盛衰ヲ漢文ニテ叙述シタルモノ。

恩賜御衣今在此。捧持毎日拜餘香。聞者莫不感歎。〔皇朝史略〕

二〇 復有十四歲乎

大阪之役、城將陷、賴宣自後軍馳至茶白山、則諸將賀者大聚。賴宣攬涙、謂家康曰、大人置兒後軍、使不及事。松平正綱曰、君十四歲矣。前途修遠、不患不建功。賴宣變色曰、吾復有十四歲乎。家康曰、汝此言、足以當首功也。〔日本外史〕

〔自修文〕 十有三春秋

頼 襄

古人 古ノ聖賢ヲイフ。青史 歴史。

十有三春秋 逝者已如水。天地無始終。人生有生死。安得類古人。千載列青史。

二一 勉學三題

一 螢雪之苦

〔蒙 求〕

晉車胤、大好學。家貧不得油。夏月、則盛螢於囊、照書讀之。以夜繼日焉。孫康亦貧。冬夜、映雪讀書。勵精不倦。後二人皆顯于世。

二 惜分陰

原 善

荻生徂徠、看書向暮、則出就簷際。簷際亦不可辨字。

車胤・孫康 共ニ支那晉時代ノ學者。原善 念齋ト號ス。下總ノ人。徳川時代ノ儒者。文化三年(西六)歿ス。年四十七。荻生徂徠 名ハ雙松。江戸ノ人。徳川時代ノ儒者。享保十三年(三六)歿ス。年六十三。簷際 音「エンサイ」。簷ハ訓「ヒサシ」。エンサキ。

齋 書齋。

「先哲叢談」入卷。

原善ノ撰。儒家ノ
閱歷等ヲ漢文ニテ
記述シタルモノ。

除日 オホミソカ。

菅得庵 氏ハ菅原。

名ハ女同。姫路ノ
人。京都ノ儒者。

寛永五年(三六〇)歿
ス。年四十八。

「通鑑綱目」五十
九卷。支那宋時代
ノ朱熹ノ撰。支那
ノ歴史。

〔何待……〕

陶潛 字ハ淵明。

支那晉時代ノ詩
人。

則入對齋中燈火。故自旦及深夜手無釋卷之時。其
平生惜分陰者。率此類也。〔先哲叢談〕

三 除日講起

原 善

歲暮。菅得庵謂林羅山曰。余未讀通鑑綱目。請先生
以明春爲余講之。羅山曰。子心誠求之。何待來年。即
以除日講起。〔先哲叢談〕

二 惜陰

一 盛年不重來。一日難再晨。及時當勉勵。

陶 潛

歲月不待人。

二

朱 熹

少年易老學難成。一寸光陰不可輕。

未覺池塘春草夢。階前梧葉既秋聲。

三 讀書之法

兩 森 東

讀書之法。讀五張一遍。不如讀一張五遍。讀一張五
遍。不如讀半張十遍。讀半張十遍。不如讀一句四十遍。此法也。
十遍。讀二三行。二十遍。不如讀一句四十遍。此法也。
謂之日計之不足。月計之有餘。朝起則先思書義。於

朱熹 支那宋時代ノ
大儒。朱子ト尊稱
セラル。

池塘 笠ノタウリ。
池ノツツミ。

雨森東 芳洲ト號ス。

京都ノ人。徳川時
代ノ儒者。對馬侯

宗氏ニ仕ヘタ。

寶曆五年(四一五)歿
ス。年八十八。

張 書簿ノ紙數ヲ數

ヘルニイフ語。丁

ニ同ジ。表裏二頁

ヲ一丁トイフ。故

ニ半張ガ一頁ニア
タル。

衽席音「ジンセキ」。

〔且…且…〕

〔未之有〕

衽席之上、且思且起、夜寢、則又思書義於衽席之上、且思且睡。此法也。謂之不頃刻忘如此而學不成者、未之有也。

紫姬 紫式部。
清媛 清少納言。

二四 紫姬清媛

德川 光 圀

敏慧 音「ミンケイ」。
サトキコト。
輒 訓「スナハチ」。
ソノ度ニノ意。



紫式部

紫式部、式部丞藤原爲時女也。嫁右衛門權佐藤原宣孝。式部資性敏慧、幼時聞人讀書、輒能語記。爲時甚愛之、常撫之曰、恨不使汝爲男。長能和歌博涉、和

典故 典禮故事。
上東門院 名ハ彰子。第六十六代一條天皇ノ中宮。

「白氏文集」 支那唐時代ノ白居易ノ文集。

假託 カコツクルコト。コトヨスルコト。

箋注 音「センチュウ」。本文ノ意味ノ解釋。
一條天皇 第六十六代。

「日本紀」 日本書紀ノ略。
媿 音「エイ」。從順。

大較 大體。

後一條天皇 第六十八代。

漢舊記兼通朝廷典故。時上東門院方好文詞、擇婦人有才華者、引置左右。式部亦時候焉。上東門院欲讀白氏文集、式部授之樂府二卷、著源氏物語五十帖、假託醍醐朱雀村上三朝事蹟、架空馮虛、閱富精妙、度越古今。後人下箋注、釋疑義、爲詞家之宗。一條天皇讀而大賞之、曰、是善諳熟日本紀者也。人呼曰、日本紀局。爲人婉順淑媿、不自矜所長、其謹飭持身之大較、見于所著日記。女賢子亦善和歌、著狹衣物語。嫁太宰大貳高階成章、爲後一條天皇乳母。大貳三位是也。

藤原皇后 名ハ定子。

流竄 音「リウザン」。
遠地ニ流スコト。
郎署 侍從・護人
ナドノ署ライフ。

草場 佩用ト號ス。蘇末ノ詩人。

葩 音「ハ」。花ナリ。
徐生 秦ノ徐福、仙藥ヲ求メテ我が國ニ來レリ。
白居易 字ハ樂天。香山居士ト號ス。支那唐時代ノ詩人。

金粟 黃菊ノコト。
高倉天皇 第八十代。後白河天皇ノ第四子。御在位十二年。養和元年(一一八一)崩ス。御年二十一。

清原賴業 明經博士タリ。文治元年(一一九一)歿ス。年八十八。
幼時 御年十歳ノ時ナリ。

〔命……守〕

清少納言、肥後守清原元輔女也。有才學。與紫式部齊名。一條天皇時、仕藤原皇后、被眷遇。皇后雪後、顧



清少納言

左右曰「香爐峰雪、想如何」。少納言即起、褰簾。時人嘆其敏捷。皇后特嘉其才華、欲奏爲内侍。遭藤原伊周等流竄、不果。老家居屋宇甚陋。郎署年少見其貧窶、憫笑之。少納言自簾中呼曰「不聞有買駿馬骨者乎」。笑者慙而去。著枕草子「行于世」。

〔大日本史〕

二五 櫻菊雙美

一 櫻花

草場 廉

西土牡丹徒自誇。

不知東海有名葩。

徐生當日求仙處。

看做祥雲是此花。

二 菊花

白居易

一夜新霜著瓦輕。

芭蕉新折敗荷傾。

耐寒唯有東籬菊。

金粟花開曉更清。

二六 煖酒燒紅葉

青山 延子

高倉天皇性仁孝。受學清原賴業。才藻英發。初天皇幼時、有獻楓樹者。天皇極愛之。命藤原信成守之一。

仕丁音「シチャウ」
宮中ノ雜役ニ服ス
ルモノヲイフ。小
使ノコト。
收捕ナリ。

叩頭 頭ヲ地ニツケ
テ拜スルコト。頓
首ニ同ジ。

唐詩有云「白樂天ノ
詩ニ曰ク「黑水澄
時潭底出、白雲破
處洞門開、林間煖
酒燒、紅葉、石上
題詩掃練苔」」

醍醐天皇 第六十
代。御在位三十三年。
延長八年(五九〇)
崩ズ。御年四十六。
格制 キツク。キマ
リ。格ハ格式。制
ハ制令。延喜式ナ
ドヲイフ。

藤原時平 基經ノ
長子。左大臣トナ
ル。勅ヲ奉ジテ三
代實錄・延喜式ナ
ドヲ撰ス。
職事職務アル官吏。
藏人ヲイフ。
讓 訓「セム」。言フ
以テ責ムルナリ。
〔豆宜……〕
頓 立チドコロニ。
凍餒 音「トウタイ」。
コゴエウウルコ
ト。
嚴恪 オゴソカニ
ツツシムコト。

填然音「テンゼン」。
鼓ノ音ノ盛ナルサ
マ。

日仕丁將飲酒剪枝爲薪以煖
酒信成見而大驚收仕丁將置
之罪會天皇使信成上其樹信
成具奏其狀叩頭請罪天皇從
容曰「唐詩有云「林間煖酒燒紅
葉誰教仕丁作此風流」無復所
問」〔皇朝史略〕

二七 寒夜脫御衣

醍醐天皇臨御日久勵精圖治延喜中新立格制而



煖酒燒紅葉圖

青山延子

風俗奢侈多犯者天皇患之。一日藤原時平盛飾而
入。天皇見而大怒使職事讓之曰「今者嚴立格制左
大臣身長百僚首犯國禁大臣舉動豈宜如此」時平
惶懼歸第屏居月餘自是奢侈頓改。天皇性慈仁愛
民寒夜親脫御衣以省民間凍餒每見群臣假以辭
色嘗曰「持己嚴恪人難盡言故朕常溫顏色以來諫
者」〔皇朝史略〕

二八 故事

○五十步百步 孟子對曰「王好戰請以戰喻填然

「孟子」十四卷。支那戰國時代ノ哲人孟子ノ言行ヲ録ス。

「晉書」百三十卷。支那唐ノ太宗ガ房玄齡等ニ命ジテ撰セシメタモノ。

晉時代ノ歴史。武昌今、湖北省ニアリ。

蚌 ハマガリ。カハセミ。

鼓之、兵刃既接、棄甲曳兵而走。或百步而後止、或五十步而後止、以五十步笑百步、則何如。曰、不可。直不百步耳、是亦走也。〔孟子〕

○著先鞭。晉劉琨與祖逖齊名。琨謂人曰、常恐祖生先我著鞭。〔晉書〕

○破竹之勢。杜預伐吳、攻武昌、降之。預謂、兵威已振、譬如破竹、數節之後、迎刃而解、無復著手處也。〔晉書〕

○漁父之利。蚌方出曝、而鷸啄其肉、蚌合箝其喙。鷸曰、今日不雨、明日不雨、即有死蚌。亦謂鷸曰、今日

不出、明日不出、即有死鷸。兩者不肯相舍、漁者得而并擒之。〔戰國策〕

并擒之。〔戰國策〕

二九 仁齋化賊

原 善

伊藤仁齋、嘗夜行郊外。劫賊四五人、當路立。各按劍曰、吾徒不醉不樂。今無酒資。客若缺腰纏、則自脫衣裳供之。仁齋神色不少動。曰、今日適無囊錢。敝縑袍、脫以遺之耳。且問、汝輩常以何爲業耶。曰、昏夜橫行、掠奪以自給。是其業也。仁齋曰、以若所爲爲業、吾何拒焉。輒脫衣以授之。將去。於是賊止。仁齋曰、吾儕草竊爲衣食、數年未嘗見舉止如客者。抑客何爲者。曰、

伊藤仁齋名ハ維積。京都ノ人。徳川時代ノ儒者。寶永二年(三六)歿ス。年七十九。劫賊音、ケフゾク。オヒハギ。腰纏音、エウテン。明卷フイフ。敝縑袍音、ヘイランバウ。ヤブレタルワタイレ。遺訓「オクル」。贈ナリ。若、如此ニ同ジ。昏夜、昏モ夜ノ意ナリ。儕音、サイ。仲間。トモガラ。草竊音、サウセツ。コンドロバウ。舉止、タチキフルマヒ。舉動ニ同ジ。〔何爲者〕

〔焉耳〕

均 訓「ヒトシ」等ナリ。

飲 灰洗胃 過ヲ悔イ、心ヲ新ニスルヲイフ。

岡田正之 劍西ト號ス。富山ノ人。

漢學者。文學博士。

昭和二年(壬辰)歿ス。年六十四。

阿里山 新高山ノ西、臺中、臺南兩州ニ跨ル大森林山。

ソノ附近ニ阿里山蕃住ス。

馘 音「クワク」。首ヲキル。

奠 音「テン」。供フ。

「儒者也。曰、儒者爲何事。曰、以人道教人者也。所謂人道者、孝于父母、友于兄弟、不可一日無者、是也。人而無道、禽獸焉耳。言未畢、賊皆頓首涕泣曰、噫、君與吾均是人也。而事業之迥異如是、吾甚恥。願君宥吾儕罪。今而後、飲灰洗胃、謹奉教于門下。遂皆改心自勵云。」〔先哲叢談〕

三〇 義人吳鳳

岡田正之

吳鳳、臺灣阿里山吏也。有俠氣、愛撫人。蕃俗祭神馘人首、奠之。鳳甚惡之、欲革其弊。時蕃人所蓄首級四十。

十。鳳諭蕃人、每年供其一、令無新馘。既經四十年、首級皆盡。蕃人請馘首。鳳懇諭止之、遷延三年。蕃人強請不已。鳳曰、無已、則有一焉。明日、日中、冠赤帽、被赤衣者、應過此。汝等取其首。明日、赤帽者果至。蕃人躍出殺之。則吳鳳。蕃人大驚、伏屍而哭、深悔其非。遂建祠、尊爲阿里山神。相誓曰、吾族從今不敢馘首。吳鳳死而二百餘年。阿里山蕃獨無害人者。吳鳳之力也。嗟呼、亦偉哉。

三一 上杉鷹山

一 孝百行之本

重野安釋



上杉治憲號鷹山。幼有至性。善事其父。服養備至。常謂「孝百行之本也」。躬行率先。推以及親族子弟。皆誨以孝悌。父好散樂。治憲爲屢演。之以奉其歡。嘗集九十歲以上老者。舉尙齒會。治憲奉父臨之。躬饋薦父。治下翕然興于孝。〔帝國史談〕

二 敬師

安井衡

鷹山公好學。尤敬重師儒。其師細井平洲。嘗來米澤。

上杉鷹山 羽前米澤ノ藩主。文政五年(四三)歿。年七十一。
 備 十分事コマカニ。散樂 今ノ能樂。尙齒 老人ヲタフトブコト。
 饋鷹 音「キセン」。食ヲ長者ニ進ムルコト。
 翕然 音「キフゼン」。アツマリ合フサマ。
 安井衡 息軒ト號ス。日向ノ人。漢學者。明治九年(二五)歿。年七十八。
 細井平洲 本姓ハ紀。尾張藩ノ儒官。享和元年(四六)歿。年七十四。

驍從 音「スウジウ」。ウ。馬ニ乗リタル從者。
 如堵 音「カキノ如ク多クナラフ」。

旗幟 音「キシ」。ハタ。ノボリ。
 直衣 訓「チホシ」。四位以上ノ常服。叩 訓「ヒカフ」。控ナリ。
 大臣大將 重盛、時ニ内大臣左近衛大將タリ。
 〔自非有〕 闕 音「ケツ」。宮門。表 上ニ著ル。

公迎之於郊曰。今日爲先生前驅。屏去驍從。步而導之。且行且顧。以至于城。觀者如堵。皆歎公忘其貴。而平洲以道自重也。

三 重盛諫言

賴襄

有主馬盛國者。馳告重盛。重盛大驚。急命駕赴之。入第門。族人皆擐甲鞍馬。旗幟成列。將起。重盛烏帽直衣而入。宗盛叩其袖曰。公何以不被甲。重盛睨曰。汝等何以被甲。敵人何在。吾爲大臣大將。自非有寇賊犯闕。則不宜被甲也。清盛望見之。遽起。表黑衣而

泣 訓「ナンド」。涙
二同ジ。
泣 訓「ヒラク」。開
ナリ。
狀 白然シタル聴取
書。 糞進 音「キシン」。
アツマリ進ムコ
ト。

四恩 佛教ニ、天地・
國王・父母・衆生ノ
恩ヲ四恩ト爲ス。
平將軍 貞盛。
刑部卿 忠盛。
内昇殿 禁中ノ昇
殿。院ノ昇殿ニ對
シテイフ。
反唇 心服セズシ
テ、誹謗スルコト。
駢植 音「ヘンチ」。
如ビ立ツコト。

艾 訓「ツク」。盡ナ
リ。
〔何必〕
以王事云云 春秋
公羊傳ニ見ユ。
較 音「カウ」。明ナ
リ。
三公 太政大臣・左
大臣・右大臣。又内
大臣・左・右大臣ヲ
イフ。
源下野守 義朝。
六條判官 義朝ノ父
爲義。
賭 訓「ミル」。視ニ
同ジ。
觀 訓「アフ」。遭ナ
リ。
感 訓「ウレハ」。憂
ナリ。



出、數正襟。襟呫甲觀。謂重盛曰、「吾察西光狀、如成親
等、乃其枝葉耳。聞羣小彙進、覬覦不已。而御以輕躁
之君、何所不至。我欲且請幸一
邊、以待事定。語未畢、重盛泣數
行下。久之曰、「重盛熟視尊貌、知
家門已屬衰運也。重盛聞之、世
有四恩、皇恩爲最抑我門、雖辱
桓武、葛原之胤、而降爲人臣、中微不顯、以平將軍之
功、而不過國守。刑部卿聽內昇殿、萬人反唇、及至大
人、陞太政大臣、以兒之不肖、且辱大臣、大臣大將、宗族駢

植朝廷、田園半於天下。叨恩極矣。爲官家所疾、誰謂
不宜。而運命未艾、讒人既獲、宜論罪所當、退陳事由。
則公家豈有不壽威。何必草草爲也。兒又聞之、以王
事辭家事、不以家事辭王事。況善惡較著者乎。重盛
自六位至三公、沐浴君恩、不可勝舉。嚮背之決、自有
在焉。素所撫循士、願爲重盛死者、二百餘人。保元之
亂、源下野守、以勅命斬六條判官。兒在當時、以爲大
逆無道、不忍言者也。此非大人所親睹乎。欲忠則不
孝、欲孝則不忠。重盛進退窮於此矣。生觀是感、不若
死也。大人必欲遂今日之舉、先刎重盛首、而後發。且

言且泣。舉座感動。清盛曰：「淨海以衰老爲此舉，非爲一身計。徒慮子孫耳。乃以爲不可，汝好計之。」乃起入內。
〔日本外史〕

三三 忠孝一本

藤田 彪

夫孝子之敬身，身體髮膚，猶不敢毀傷。況大義之在



我者，豈獨可虧乎。然則進而事君，全其大義，乃所以孝於親也。君子之事君，委吏乘田，不敢苟且。況風教之闡治者，豈獨可忽

委吏・乘田 孔子ガ微賤ノ時任ゼラレタル官。委吏ハ米穀ノ出納ヲ掌リ、乘田ハ牧畜ヲ掌ル。

〔不敢〕

綱常 三綱五常ヲイフ。
夏清 清ハ涼ナリ。

川北長顛 梅山ト號ス。伊勢ノ人。漢學者。明治三十八年(五十六)歿ス。年八十四。
坤輿 音「コンヨ」。地球。

乎。然則退而養親，助其風教，乃所以忠於君也。忠之與孝，不二其本。在所處何如耳。而立忠孝不兩全之說者，則曰：「家居養親，則不能致身於君。是徒知夙夜在公之爲忠，而不知扶植綱常之爲大忠也。又曰：「以死殉國，則不得竭力於父母。是徒知冬溫夏清之爲孝，而不知殺身成仁之爲大孝也。」
弘道館記述義

三四 我國體

川北長顛

坤輿之上，環而國者六十餘。有君主，有民主，國體各異。而大率出於上下爭奪，強弱抑制之餘。如我邦獨

以還 コノカタ。以
來ニ同ジ。

金甌無缺 黄金ノ
甌ノムキズノモノ
ノ義。國家ノ外侮
ヲ受ケシコトナキ
ニ喻フ。甌ハ小サ
キ瓶。

〔安可不乎哉〕

〔韓詩外傳〕十卷。
支那漢時代ノ韓嬰
ノ撰シタル詩書。
〔孝經〕孔子ト門人、
曾參トノ孝道ニ關
スル問答ヲ録シタ
ル書。

不然。開闢以還、皇統一系、億兆臣事、無他志。且士民、
概亦屬皇祖、支裔列聖、視民猶子、士民仰上猶父。義
則君臣情、則父子、不敢容覲覲。是我國體之所以卓
越萬國也。嗚呼、建國二千五百有餘年、國運昌盛、金
甌無缺、爲臣民者、安可不思其所自乎哉。〔夢清樓存稿〕

三五 格言

- 樹欲靜而風不止、子欲養而親不待矣。〔韓詩外傳〕
- 君子事親孝、故忠可移於君。〔孝經〕
- 國以簡賢爲務、賢以孝行爲首、求忠臣、必于孝子

之門。〔後漢書〕

三六 楠木正成

賴 襄

延元 第九十六代後
醍醐天皇ノ年號。
元年(六六)
北畠顯家 親房ノ子。
鎮守府將軍タリ。
義良親王ヲ奉ジテ
陸奥ヲ鎮ス。
九國 九州ナリ。
格闘 晋「カクドウ」
クミウチヲスルコ
ト。
縱 ヌルスノ意。

延元元年四月、足利尊氏大舉東上、水陸並進。新田
義貞軍、兵庫、飛書告急。朝廷震動。時北畠顯家已歸
鎮、京師兵寡。天皇命楠木正成、行援義貞。正成奏曰、
「賊新舉九國而來、其鋒甚銳。我以疲兵格闘、無他奇
道、其敗必矣。爲今計者、陛下復幸叡山、召還義貞、縱
賊入京師、而臣歸河內、絕其糧道、則賊兵日散、我兵
日聚。於是夾而攻之、可一戰而破也。」義貞之計、蓋亦

前役 延元元年正月、
尊氏鎌倉ヨリ西上
シテ京師ヲ犯シシ
ライフ。

櫻井驛 攝津三島郡
島本町ニアリ。

訣飲 音「ケツイン」。
ワカレノサカモ
リ。

直義 尊氏ノ弟。

和田崎 神戸市ノ南
端ニアリ。

出此。顧慮人言耳。戰道非一。要歸於勝。願朝廷再計之。諸公卿皆然之。獨參議藤原清忠不可曰。賊雖衆盛。不過如前役。王師有天命。宜防之外也。天皇從之。正成退謂其子弟曰。事已至此。何必抗議。五月十六日。與弟正季。子正行等。辭闕而西。至櫻井驛。正行時年十一矣。正成乃至兵庫。慰勉義貞。訣飲終夜。當是時。尊氏將水軍。直義將陸軍。陸軍稱五十萬。正成率手兵七百。陣于湊川。以當之。義貞以三萬騎。陣于和田崎。以扞水軍。水軍先鋒過而東。義貞拔軍循之。而尊氏全軍已上和田崎矣。正成顧謂正季曰。我腹背

一敵將 藥師寺十郎
次郎。

欣然 音「キンゼ
ン」。ヨロコブサ
マ。

耦刺 音「グウシ」。
互ニサシチガヘル
コト。

成敗 成功ト失敗。
順逆 人臣トシテ操
ヲ守ルト守ラザル
ヲイフ。

受敵不可遁也。先破前者。而後接背者。如何。正季曰。然。於是兄弟竝突入陸軍。七離七遭。欲獲直義。直義馬傷而墜。我兵垂及。有一敵將。遮鬪而逸之。尊氏亦分兵來援。包我軍後。正成兄弟回馬當之。血戰十六合。盡亡其騎。所餘七十三騎。乃走入湊川。北民舍坐。釋鎧。身被十一創。顧謂正季曰。死而何爲。曰。願七生人間。以殺國賊。正成欣然曰。是獲吾心。耦刺而死。正成年四十三。宗族十六人。從士五十餘人。悉死之。〔外史〕

自修文 楠公湊川戰死圖

王事寧將成敗論

唯知順逆是忠臣

大槻 清 崇

斯公一死兒孫在。

護得南朝五十春。

三七 楠木正行母

賴

襄



圖子戒母行正木楠

新田義貞敗退。足利尊氏入京。師送正成首於河內。一家聚哭。正行起入室。其母尾而闚之。則執父所授刀。將自殺。母徑入奪刀而泣曰。汝何惑焉。乃父之遣歸汝。豈教汝自殺也。汝銜遺命。歸來告吾。而汝先忘之。惡能任王事。正行大悟。自是

關訓「ウカガフ」。

伺ナリ。

徑訓「タダチニ」。

直ナリ。

〔豈教…〕

任訓「ソフ」。

堪ナリ。

元訓「カウベ」。

首ナリ。

義故 恩義ヲ蒙リ終故アル者。

以討國賊。復父讐。爲志。常與兒童嬉戲。爲馳逐狀。曰。追足利也。爲斬首狀。曰。獲尊氏元也。楠木氏族黨多死。湊川而河內。紀伊之間。猶有義故存者。皆思戴正行。〔日本外史〕

三八 芳野三絶

一

梁川孟緯

今來古往跡茫茫。春入櫻花滿山白。

石馬無聲杯土荒。南朝天子御魂香。

二

藤井啓

梁川孟緯 星巖ト號ス。幕末ノ漢詩人。安政五年(一八五〇)歿ス。年七十。杯土 音「ホウド」。陵墓ヲイフ。藤井啓 竹外ト號ス。攝津高槻ノ藩士。幕末ノ漢詩人。慶應二年(一八三三)歿ス。年六十。

颯音「ハウ」。大風ナリ。此ノ字、一ニ「颯」ニ作ル。

轅訓「トドム」又ハ「ヤム」。

帶訓「ハク」又ハ「ハラフ」。

河野鐵兜ト號ス。播磨ノ人。幕末ノ漢詩人。慶應三年（三五七）歿ス。年四十三。

銷音「セウ」訓「トク」消ル又ハ衰フ意。

護良親王大塔宮ト申ス。後醍醐天皇ノ皇子。

村上義光通稱房四郎。信濃ノ人。吉野朝ノ忠臣。

蝟毛音「キモウ」。ハリネズミノ毛。

袍鎧訓「ハウガイ」。直垂ト鎧。

詭訓「イツハル」。

古陵松柏叫天颯。
眉雪老僧時輟帶。

山寺尋春春寂寥。
落花深處說南朝。

三

河野 熊

山禽叫斷夜寥寥。
露臥延元陵下月。

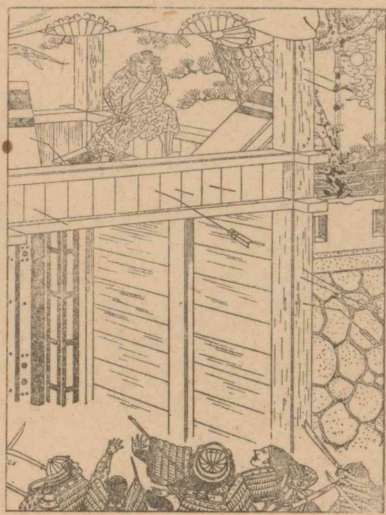
無限春風恨未銷。
滿身花影夢南朝。

三九 父子殉節

德川 光 圀

護良親王據吉野。賊以大兵來攻。外城既陷。親王退入帳。訣飲。村上義光鎧被矢如蝟毛。來跪曰。賊勢強甚。城不可支。臣請賜大王袍鎧。詭為大王死。大王乘

間遁去。親王曰。死則同死。何忍相棄。義光勵聲曰。大王輕死。何以濟大業。進解親王鎧。親王揮淚而行。義



村上義光

光乃被鎧登城樓。子義隆來欲俱死。義光曰。速去為王拒後。勿徒死。義隆泣訣。義光遙望親王去遠。大呼曰。今上第三

皇子護良引決。汝等行受天誅。見我自刃。以為法。乃割腹抽腸。擲壁而斃。賊兵聚觀。不計親王脫出。已而覺之。追躡。義隆單身還鬪。斬數人。身被二十餘創。入

徒死 犬死ナリ。

引決 責ヲ負ヒテ自殺スルコト。

追躡 音「ツキセフ」。アトヲツケテオフコト。

林中自殺。親王終獲免。義隆年十八矣。〔天日本史〕

四〇 何恨不見花

青山延壽

芭蕉翁伊賀人。元祿中、大和國武內村有孝女。名今



芭蕉 (筆翁笠)

有至性。芭蕉一歲往在山城攝津間。將賞花芳野。僅得金一兩。以當路費。聞今女名。枉道造焉。感其孝養。且憐其窮乏。乃出囊中金一兩贈之。今辭不受。芭蕉

芭蕉 姓ハ松尾。名ハ宗房。徳川時代ノ俳人。元祿七年(三三)歿ス。年五十一。伊賀 今ノ三重縣ニ屬ス。元祿 第百十三代東山天皇ノ年號。武内村 今ノ奈良縣山邊郡朝和村竹之内。至性 至ッテ善良ナル性質。造訓「イタル」。到ナリ。

遇 偶然ニアフ。

〔謂…曰〕

〔何如〕

〔何恨不…〕

〔女誠〕 支那漢時代ノ曹昭ノ撰。曹昭、字ハ惠姬。曹世叔ノ妻。曹大家ト稱ス。

〔不必…〕

幽閒貞靜 奥ユカシクシトヤカナルコト。

四一 女有四行

〔女〕

〔誠〕

強與之去。徑就歸途。途而遇一友人。其人謂翁曰「芳野花何如」。翁語以其故。友人曰「翁平生心切於見芳野花。今得路費。而不爲觀花。費與之於人。實爲遺憾」。芭蕉笑曰「予遊芳野。爲花之美也。今幸視人之美者。何恨不見花。春者他時又至。竟拂袖去。」〔皇朝金鑑〕

女有四行。一曰婦德。二曰婦言。三曰婦容。四曰婦功。夫云婦德。不必才明絕異也。婦言。不必辯口利辭也。婦容。不必顏色美麗也。婦功。不必技功過人也。幽閒

鹽澆 音「クワンクワン」ソソギアラフコト。
穢 音「アイ」。ケガレ。

古人 孔子ヲサス。

春日局 名ハ福。徳川家光ノ乳母。闇人音「コンジン」。門番。

貞靜守節整齊行己有恥動靜有法是謂婦德擇辭而說不道惡語時然後言不厭於人是謂婦言鹽澆塵穢服飾鮮潔沐浴以時身不垢辱是謂婦容專心紡績不好戲笑潔齊酒食以供賓客是謂婦功此四者女人之大節而不可乏之者也然爲之甚易惟在存心耳古人有言「仁遠乎哉我欲仁而斯仁至矣」此之謂也。

四三 春日局

中村和

春日局嘗夜歸過平川門闇人曰「夜間出入非有監察之命不能也」局自稱名闇人以



察之命不能也。局自稱名闇人以白大闇。大闇曰「無監察之命雖大將軍不可入焉。況於春日乎」局大窘佇于門外。時方隆冬寒氣刺骨。久之命下然後得入局感其守法

嚴正翌朝遣人遺點心謝之。〔日本智囊〕

四三 山内一豊妻

大槻清崇

山内猪右衛門一豊始筮仕織田氏也適有東國人來販名馬者安土諸將士皆驚其神駿然爲價貴之

大闇 門番ノ長。

點心 オヤツノ菓子。
山内一豊 尾張ノ人。初メ信長ニ仕ヘ、後秀吉ニ、又家康ニ從フ。慶長十九年（三七四）歿ス。年六十。
筮仕 音「ゼイシ」。ハジメテ仕官スルコト。
安土 近江蒲生郡ニアリ。

流涎 音「リウセン」。ヨダレヲ流ス。深ク羨ム意。

〔痛哉……也〕

〔不唯……〕

故不能購也。販者將牽馬徒還。一豊見之、不勝流涎。歸家、獨自歎曰、「痛哉貧也。我當事君之初、獲此名馬、以見主公者、不唯一豊一人之榮、抑亦織田氏之榮矣。其妻聞之、就問價曰、「黃



妻豊一内山

金十兩矣。妻曰、「夫君必欲獲之、妾能辦之。乃取金於鏡匳、致之一豊前。一豊且喜且恨曰、「比來窮困之極、或恐及卿願覆而卿絕不言有金、何卿之忍耶。妻曰、「夫君言亦有理。願昔者妾之來嫁也、妾父自納之、鏡

辦 音「ベン」。トリハカラフ。

鏡匳 音「キヤウレン」。カガミバコ。

騎馬 軍馬・戦馬。又ルコト。馬。天正九年(二)二月、信長諸國ノ將士ヲ召シテ馬ヲ調セシム。衣服鞍馬最モ華麗ヲ極ム。天皇臨觀シタマフ。

〔無乃此耶〕 獄翁 妻ノ父ヲイフ。

〔無幾〕

嘶 音「セイ」。調、イナク。猪右 猪右衛門ノ略稱。

上國 都ニ近キ諸國ヲイフ。

落魄 音「ラクハク」。オチアレルコト。〔不當如此耶〕 釋褐 ハジメテ仕官スルコト。

底戒曰、「汝勿以夫家貧故、費此金。必也有關夫君一大事、然後用之。妾聞近日京師有簡馬之舉。今夫君而獲此馬、是一世之榮。而所謂大事、無乃此耶。是以敢爾。」一豊泣而謝曰、「卿之惠也。獄翁之恩也。遂購其馬。無幾、簡馬之期至矣。一豊乃騎而入京。風骨峻爽、奮鬣一嘶。信長望見、大驚曰、「猪右、何所獲此乘乎。」一豊具告其故。信長歎曰、「我家多士、而不能購一馬、洵爲上國之恥。汝落魄歸於我、乃能爲此非常之舉、以一洒我恥。武夫用心、不當如此耶。」一豊釋褐五百石。於是增爲千石。遂以見任用。〔近古史談〕

「小學」六卷。支那
宋時代ノ朱熹ノ撰
シタル書。
行成 音、カウジユ。
邊地ヲ守ル士卒ヲ
イフ。

應 訓「コタフ」。答
ナリ。
紕 音「ジン」。訓「オ
ル」。織ナリ。

供養 衣食ヲ供給シ
テ養フコト。

四四 漢陳孝婦

〔小 學〕

漢陳孝婦、年十六而嫁、未有子。其夫當行成、且行時、
屬孝婦曰、「我生死未可知。幸有老母、無他兄弟、備養
吾不還、汝肯養吾母乎？」婦應曰、「諾。夫果死不還、婦養
姑不衰。慈愛愈固、紡績織紕、以爲家業、終無嫁意。居
喪三年、其父母哀其少無子而早寡也、將取嫁之。孝
婦曰、「夫去時、屬妾以供養老母、妾既許諾之。夫養人
老母而不能卒、許人以諾而不能信、將何以立於世？」
欲自殺。其父母懼而不敢嫁也。遂使養其姑、二十八

淮陽 今ノ河南省
ニアリ。
復 音「フク」。訓「ノ
ゾク」。除ナリ。賦
役ヲ免除スルヲイ
フ。

竹添進一郎 名ハ
光鴻。進一郎ハ通
稱。井井ト號ス。
蕭本ノ人。大正六
年（五七）歿ス。年
七十六。

聯隊旗 明治十年（二
五）西南ノ役ニ
賊軍ノタメニ奪ハ
ル。將軍以テ終生
ノ恨事トセリ。

青山馳道 宮城ヨ
リ青山ノ葬場殿ニ
至ル靈輦ノ御通路
ヲ指ス。
朱闕 宮城ヲイフ。
萬國衣冠 世界各國
ヨリ御大葬ニ參列
セル使臣。

年、姑八十餘、以天年終。盡賣其田宅財物、以葬之。終
奉祭祀。淮陽太守以聞、使使者賜黃金四十斤、復之。
終身無所與、號曰「孝婦」。

四五 雙殉行

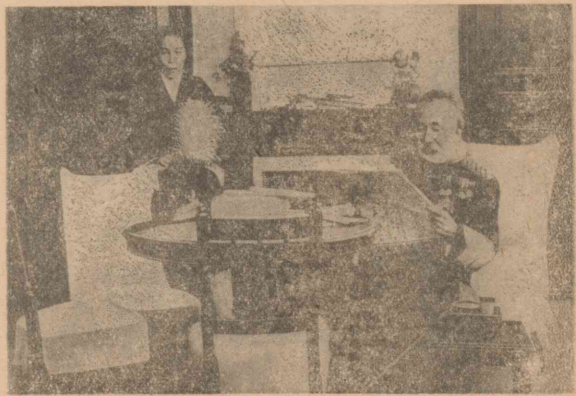
竹添進一郎

戰雲壓城、城欲壞、腹背受敵、我軍敗。
聯隊旗兮、臣所掌、爲賊所奪、臣罪大。
旅順巨砲、千雷轟、骨碎肉飛、血雨腥。
二萬子弟、爲吾死、吾何面目、見父兄。
青山馳道、連朱闕、萬國衣冠、儼成列。

輓 音「テン」。訓「メ
グル」「キシル」。

蛾眉 婦人ノ意。
乃木大將夫人ヲ指
ス。

桐 音「トウ」。殆ナ
リ。



乃木大將夫人

責躬誠世情尤急。
鬼哭神恫天亦泣。
嗚呼以身殉君臣節堅。

靈輿肅肅牛步遲。
金輪徐輓聲如咽。
弔砲一響臣事終。
刺腹絕喉何從容。
旁有蛾眉端坐伏。
白刃三刺纖手紅。
遺書固封墨痕濕。
言言都自熱腸迸。

舍生從夫婦道全。

忠魂貞靈長不散。

千秋萬古侍桃山。

四六 垓下之圍

會先之

垓下 楚ノ地名。今
ノ安徽省ニアリ。
固陵、今ノ河南省
ニアリ。

桃山 京都市伏見區
ノ東方ニアリ。乃
木大將夫妻モ亦桃
山御陵附近ニ葬ラ
レタリ。

騅 音「スキ」。馬ノ
毛色ノ蒼白雜色ナ
ルモノ。アシゲ。

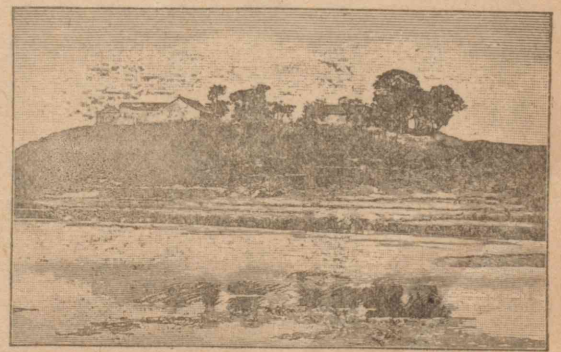
漢王追項羽。至固陵。韓信彭越期不至。張良勸王以
楚地梁地許兩人。王從之。皆引兵來。黥布亦會。羽至
垓下。兵少。食盡。信等乘之。羽敗入壁。圍之。數重。羽夜
聞漢軍四面皆楚歌。大驚曰。漢皆已得楚乎。何楚人
之多也。起飲帳中。命虞美人起舞。悲歌慷慨。泣數行
下。其歌曰。力拔山兮氣蓋世。時不利兮騅不逝。騅不
逝兮可奈何。虞兮虞兮奈若何。騅者羽平日所乘。駿

淮 川ノ名。河南ニ發シ、安徽ノ中部ヲ流レテ洪澤湖ニ入ル。

東城 縣ノ名。今ノ安徽省ニアリ。

烏江 揚子江ノ津名。今ノ安徽省ニアリ。
籍 項羽ノ名。羽ハ字ナリ。

馬也。左右皆泣、莫敢仰視。羽乃夜從八百餘騎、潰圍南出、渡淮。迷失道、陷大澤中。漢追及之。至東城、乃有二十八騎。羽謂其騎曰、「吾起兵八歲、七十餘戰、未嘗敗也。今卒困此。此天亡我、非戰之罪。今日固決死、願爲諸君決戰、必潰圍斬將、令諸君知之。」皆如其言。於是欲東渡烏江。亭長艤船待曰、「江東雖小、亦足以王。願急渡。」羽曰、「籍與江東子弟八千人、渡江而西。今無一人還。縱



江 烏

勿 音「フン」。訓「ハヌ」。クビハヌ。

題烏江亭 此ノ題一ニ「烏江廟」ニ作ル。
杜牧 樊川ト號ス。
支那晚唐ノ詩人。
不可期 一本ニ、「事不期」ニ作ル。
吳偉業 梅村ト號ス。支那清時代ノ詩人。
虞兮 項羽ノ寵姬虞美人。
楚重瞳 項羽ライフ。羽ハ目中ニ二ツノ眸子アリシトイフ。

江東父兄憐而王我、我何面目復見獨不愧於心乎。自刎而死。楚地悉定。〔十八史略〕

四七 感懷一首

一 題烏江亭

杜

牧

勝敗兵家不可期。包羞忍恥是男子。

江東子弟多才俊。捲土重來未可知。

二 虞兮

吳

偉業

千夫辟易楚重瞳。仁謹居然百戰中。

博得美人心肯死。項王此處是英雄。

四八 詔勸農蠶

德川 光圀

繼體天皇元年春三月詔曰朕聞一夫不耕則天下或受其飢一婦不織則天下或受其寒是故帝王躬耕以勸農業后妃親蠶以勸女功況在羣寮百姓其可廢棄農蠶乎有司普告天下令識朕意〔天日本史〕

自修文 憫農

李 紳

鋤禾日當午汗滴禾下土誰知盤中飧粒粒皆辛苦

四九 忠益說

中村 正直

把耒而耕者農夫之忠益於邦國也製造貨物者工人之忠益於邦國也運物行遠者商賈之忠益於邦國也操練備非常者步卒之忠益於邦國也至公無私興利除害者居官者之忠益於邦國也蓋人不問貴賤苟能勉強其職事則心廣體胖浩然之氣生矣而其利益必及於他人加於邦國不獨能安一家而已也若夫煖衣飽食無所事事則終日昏昏嗜欲橫生不獨不能忠益於他人一生之間徒耗損他人所力作之粒米布疋也如此則禽獸之不若矣禽獸之肉尚可用以充食懶惰之人成何用乎夫未二十歲

女功音「ヂョコウ」女ノ仕事
百姓音「ヒヤクセイ」一般ノ人民
〔其……乎〕
李紳 支那唐時代ノ武宗ノ宰相
煖音「ソソク」。夕食ナリ

耒音「ライ」。鋤ナリ
行訓「ヤル」
操練 兵ヲ練ルコト。訓練ニ同ジ
胖訓「ユタカ」。伸ビ伸ビトシタルコト
浩然之氣 「孟子」ニ見ユ。天地間ニ流行スル正シキ元氣。廣トセル氣分ヲイフ
煖衣飽食 「孟子」ニ見ユ。煖ク衣テ腹一パイ食フコト
昏昏音「コンコン」。心ノクラキサマ
橫生 ムヤミニ起ルコト
耗損音「カウソン」。ヘラシソコナフコト。耗ハ慣用音マウ
〔禽獸之不若〕
大未 英國人。

時題記簿曰「余不生於富饒之家、又不生於權勢之家、又不生於門閥之家。然余自期、一生之間、裨益於一世、裨益於朋友者、應不減於生此三者之家。後、大未爲化學名家、皆著有用之書、利益天下後世、果能成其志、人生斯世、其可不思所以忠益於國乎。」〔敬字文集〕

五〇 畫島鎌倉游記

川田剛

川田剛 畫江ト號ス。備中ノ人。明治時代ノ漢學者。明治二十九年(三五六)歿ス。年六十七。三十日 明治二十四年(重)三月。晨 音「シン」。早且。一衣帶水 水細長ク横タハリテ帶ノ如クナルヲイフ。

三十日晴晨起上舟過杜戸北指小坪浦揚帆西馳達畫島畫島又作江島周圍里許巖聳樹密神祠佛宇茶肆酒樓各倚勝地北與片瀨村隔一衣帶水白

棧音「サン」。サンバシ。

磴道音「トウダウ」。

石段ノ道、辨財天 辯舌才智ノ女神。

遙嶧音「エウエキ」。遙ニ見ユル連山。

縮遠鏡 望遠鏡。

烏帽 音「ウバウ」。エボシ。

金剛界 寶界ヲイフ。

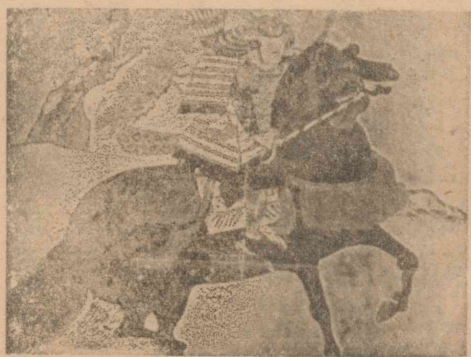


辨財天

沙平敷可以徒行猶恐其潮溢路阻架以長棧乃渡棧登磴道有祠宇曰下宮又登詣上宮過華表右見一字是爲本社竝祀辨財天社外地平西南一隅設小亭俯臨滄溟遙嶧起伏富峯特聳雲表而大磯小磯亦在水煙渺茫中取縮遠鏡望之見孤嶼浮波間頭戴白石上尖下直形類古烏帽呼爲烏帽巖亭下蟠石風潮吞吐而斷崖削立有暗窟焉亦祀辨財天把炬而入左右兩穴曰金剛界

胎藏界理界ヲイフ。弘仁 第五十二代嵯峨天皇ノ年號。元年(一〇七二)空海 弘法大師。燼 訓「キユ」。燃エ盡ス。摸捉 音「モサク」。探ルコト。鰻 音「フク」。トコブシ。ココハ、アハビノ意。阿堵 音「アト」。錢ノ異名。喧鬧 音「ケンタウ」。カマビスシキコト。岩本樓 旅館ノ名。亭午 正午。舟師 船頭ナリ。七里濱 腰越ヨリ鎌倉稻村崎ニ至ル沙濱。兒曹 コドモヲ。指點 指シ示スコト。腰越 鎌倉市ニアリ。戡 訓「カツ」。克ナリ。

日胎藏界各安石佛石獅等相傳弘仁中僧空海歸自唐修法於此種種石像即空海之所造也此間泉滴氣冷炬火將燼暗中摸捉頭觸足蹶衆懼匍匐出自穴時漁夫羣集呼客客與錢輒沒淵捕鰻錢多則沒深鰻大少則反之阿堵果靈於神佛矣初來時列肆叫賣貝器喧鬧可厭因從別路還憩岩本樓日方亭午舟師促歸傍七里濱東行余呼兒曹指點曰此爲腰越昔者源義經戡亂東歸



源義經

建武 第九十六代後醍醐天皇ノ年號。由比濱 鎌倉ノ南海濱ノ名。跌 音「フ」。組ミテ坐シタル足背ヲイフ。曆仁 第八十七代四條天皇ノ年號。元年(一一九二)募緣 音「ボエン」。社寺ナドノ建築寄附金ヲ募ルコト。南都 奈良。亞 訓「ツグ」。次ナリ。輸 音「セウ」。少シク劣ル。鎌倉大日記 作者ハ未詳ナリ。應安 第九十代龜山天皇ノ年號。元年(一二二二)

遇讒不得入鎌倉爲草腰越狀是也彼爲稻村崎建武之役新田義貞沈寶劍以祈於龍神一夕潮退碧海變爲平原是矣已而到由比濱捨舟而步過深澤淨泉寺仰觀彌陀銅像坐石上自跌至頂長三丈五尺膝徑略同腹中空洞容數十人顏溫衣整儀容可敬曆仁中僧淨光募緣所作蓋海內銅佛南都東大寺爲最大而此亞焉若論鑄造巧拙則彼或輸一籌矣鎌倉大日記曰應安二年大



新田義貞木像

明應 第百〇三代後
 號。元年(五三)年
 盛者必衰 佛典ノ
 語。盛者ハ往住ノ
 慢ノ心ヲ生ズ。故
 ニ必衰ノ理アルナ
 未牌 音「ミハイ」
 今ノ午後二時。
 黍離 今ノ王室亡ビ、宮
 殿ノアト空シクキ
 傷ミタル詩。
 麥秀 音「マクシウ」
 殷ノ廢墟ニ麥ノ秀
 デタルヲ見テ歎キ
 蘇軾 東坡ト號ス。
 支那宋時代ノ詩文
 家。ソノ文章ハ古
 今ノ傑作ト稱セラ
 壬戌 音「ジンジュ
 ッ」。訓「ミヅノエ
 イヌ」。元豐五年七
 月。軾時二年四十
 赤壁 湖北省ニアリ。
 東坡ガ元豐元年ニ
 謫セラレシ地。
 明月之詩 詩經ニア
 ル詩ヲ指ス。
 窈窕之章 詩經ニ、
 「窈窕淑女、君子好
 逖」トアルヲ指ス。
 一葦 音「イチキ」
 小舟

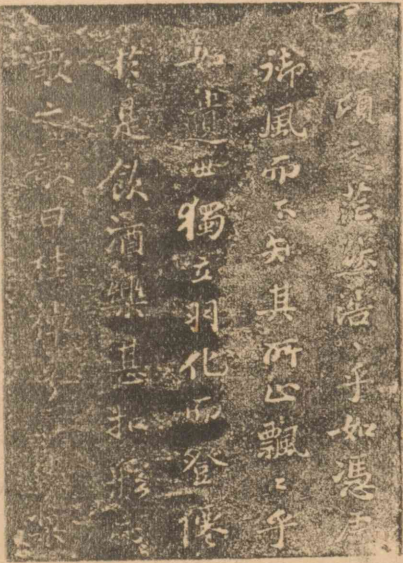
風、大佛殿顛倒、明應四年、海潮激揚、破大佛堂。當時
 佛像、在殿堂中、莊嚴可知。而今則露坐、爲風雨所侵。
 盛者必衰、佛且不免。況人閒乎。未牌、馳車抵鎌倉。百
 年、霸府廢爲荒墟、使人發黍離麥秀之歎焉。〔得聞瑣錄〕

五一 前赤壁賦

蘇軾

壬戌之秋、七月既望、蘇子與客泛舟、遊於赤壁之下。
 清風徐來、水波不興。舉酒屬客、誦明月之詩、歌窈窕
 之章。少焉、月出於東山之上、徘徊於斗牛之間。白露
 橫江、水光接天。縱一葦之所如、凌萬頃之茫然。浩浩

羽化而登仙 羽翬ヲ
 生ジ飛昇シテ仙ト
 ナルヲイフ。
 蘭漿 木蘭ノ漿。
 空明 秋水、清ク
 シテ、月、水中ニ
 アルヲイフ。
 流光 月光ノ波ト
 共ニ動クヲイフ。
 美人 君主又ハ賢
 人。
 天一方 朝廷ヲサ
 ス。
 洞簫 尺八ノ類。
 嫋嫋 音「ヂウヂウ」
 聲ノナガクヒビク
 形容。
 聲婦 音「リフ」。蘇
 軾。
 愀然 音「セウゼン」
 ウレヒカナシムサ
 マ。
 曹孟德 曹操。字ハ
 孟德。其ノ短歌行
 ニ「月明星稀、鳥
 鵲南飛、繞樹三
 匝。無枝可依」ト



(賦壁赤前) 讀筆軾蘇

乎、如馮虛御風、而不知其所止。飄飄乎、如遺世獨立。
 羽化而登仙。於是、飲酒樂甚、扣舷而歌之。歌曰、桂棹
 分蘭槳、擊空明、兮、泝流光。渺渺兮、予懷望美人兮、天
 一方。客有吹洞簫者、
 倚歌而和之。其聲嗚
 嗚然、如怨、如慕、如泣、
 如訴。餘音嫋嫋、不絕
 如縷。舞幽壑之潛蛟、
 泣孤舟之嫠婦。蘇子愀然、正襟危坐、而問客曰、何爲
 其然也。客曰、「月明星稀、鳥鵲南飛。此非曹孟德之詩、

周郎 吳ノ孫權ノ臣。周瑜ヲイフ。

醴 訓「シタム」。酒ヲ酌ムヲイフ。

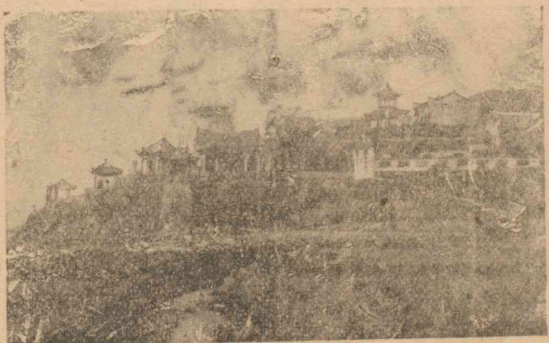
麋鹿 音「ビロク」。藥ハ大鹿。

蜉蝣 カゲロウ。朝ニ生レテ暮ニ死ストイフ。

逝者如斯 水ヲ説クナリ。論語、子罕篇ニ、「子在川上曰、逝者如斯夫、不舍晝夜。」ト。盈虚者 月ヲ説クナリ。

造物者 天地間ノ萬物ヲ創造スル神。肴核 音「カウカク」。魚肉ト果實。枕藉 音「チンシヤ」。重ナリ合ヒテ臥スルコト。「文章軌範」七卷。支那宋時代ノ謝枋得ノ撰。軌範トスベキ古文ヲ集メタルモノ。

乎。西望夏口、東望武昌、山川相繆、鬱乎蒼蒼。此非孟德之困於周郎者乎。方其破荊州、下江陵、順流而東也、舳艫千里、旌旗蔽空、醴酒臨江、橫槊賦詩、固一世之雄也、而今安在哉。況吾與子、漁樵於江渚之上、侶魚鰕、而友麋鹿、駕一葉之扁舟、舉匏樽以相屬、寄蜉蝣於天地、渺滄海之一粟、哀吾生之須臾、羨長江之無窮、挾飛仙、以遨遊、抱明月、而長終、知不可乎驟得、託遺響於



(州 圖) 壁 赤

悲風。蘇子曰、客亦知夫水與月乎。逝者如斯、而未嘗往也。盈虚者如彼、而卒莫消長也。蓋將自其變者而觀之、則天地曾不能以一瞬、自其不變者而觀之、則物與我皆無盡也。而又何羨乎。且夫天地之間、物各有主、苟非吾之所有、雖一毫而莫取。惟江上之清風、與山間之明月、耳得之而為聲、目遇之而成色、取之無禁、用之不竭。是造物者之無盡藏也。而吾與子之所共適。客喜而笑、洗盞更酌。肴核既盡、杯盤狼藉、相與枕藉乎舟中、不知東方之既白。文章軌範

五二 故事三題

王珣 字ハ元琳。才學・文章ヲ以テ孝武帝ニ託セラレ。椽ツグ音「テン」。調「タルキ」。棟ヨリ椽ニカケワタス材。孝武帝 東晉第九代ノ天子。

顧愷之 支那晉時代ノ畫家。

目夷 襄公ノ妾腹ノ兄。
「左傳」春秋左氏傳ノ略。三十卷。春秋ノ註釋書。

○椽大之筆 晉王珣夢人以大筆如椽與之。既覺語人曰「此當有大手筆事」。俄而孝武帝崩。哀册諡議皆珣所草。〔晉書〕

○漸入佳境 顧愷之每食甘蔗常自尾至本。人或怪之愷之曰「漸入佳境」。〔晉書〕

○宋襄之仁 春秋之世宋襄公欲霸諸侯與楚戰。公子目夷請及其未陣擊之。公曰「君子不困人於阨」。遂爲楚所敗。世笑以爲宋襄之仁。〔左傳〕

五三 師說

韓愈

古之學者必有師。師者所以傳道授業解惑也。人非生而知之者。孰能無惑。惑而不從師。其爲惑也終不解矣。生乎吾前其聞道也固先乎吾。吾從而師之。生乎吾後其聞道也亦先乎吾。吾從而師之。吾師道也。夫庸知其年之先後生於吾乎。是故無貴無賤無長



從而師之。生乎吾後其聞道也亦先乎吾。吾從而師之。吾師道也。夫庸知其年之先後生於吾乎。是故無貴無賤無長

韓愈 字ハ退之。支那唐時代ノ文章家。唐宋ノ大家ノ一人。穆宗ノ長慶四年歿ス。年五十七。
人非生云云 論語、述而篇ニ見ユ。

庸 何ナリ。

古之聖人云云 孔子ノ禮ヲ老聃ニ問ヒ、樂ヲ襄弘ニ問ヒ、官ヲ鄭子ニ問ヒシ事等ヲサセラルナラン。

巫 音「フ」。ミコ。神ニ仕フルモノヲイフ。

無少道之所存、師之所存也。嗟乎、師道之不傳也久矣。欲人之無惑也難矣。古之聖人其出人也遠矣。猶且從師而問焉。今之衆人其下聖人也亦遠矣。而恥學於師。是故聖益聖、愚益愚。聖人之所以爲聖、愚人之所以爲愚、其皆出於此乎。愛其子、擇師而教之、於其身也、則恥師焉。惑矣。彼童子之師、授之書、而習其句讀者也、非吾所謂傳其道、解其惑者也。句讀之不知、惑之不解、或師焉、或不焉。小學而大遺、吾未見其明也。巫醫、樂師、百工之人、不恥相師。士大夫之族、曰師曰弟子云者、則羣聚而笑之。問之則曰、彼與彼年

諛 訓「ヘツラフ」。

聖人無常師 論語、子張篇ニ見ユ。

三人行云云 論語、述而篇ニ見ユ。

六藝 禮・樂・射・御・書・數。

「唐宋八家文」三十卷。支那清時代ノ沈德潛ノ撰。

相若也、道相似也。位卑則足羞、官盛則近諛。嗚呼、師道之不復可知矣。巫醫、樂師、百工之人、君子鄙之。今其智乃反不能及、可怪也歟。聖人無常師。孔子師、郯子、萇、弘、師襄、老聃。郯子之徒、其賢不及孔子。孔子曰、「三人行、則必有我師。」故弟子不必不如師、師不必賢於弟子。聞道有先後、術業有專攻、如斯而已。李氏子蟠、年十七、好古文、六藝經傳、皆通習之。不拘於時、學於余。余嘉其能行古道、作師說、以貽之。〔唐宋八家文〕

五四 格言

○勿輕小事，小隙沈舟，勿輕小物，小蟲毒身。〔列子〕
 ○前事之不忘，後事之師也。〔史記〕

〔列子〕八篇。支那先秦時代ノ道家、列禦寇ノ撰トイフ。
 諸葛亮 字ハ孔明。支那三國蜀漢ノ丞相。後主ノ建興十二年魏軍ト對陣中ニ歿ス。年五十四。
 前出師表 蜀ノ後主ノ建興五年、諸葛亮、將ニ魏ヲ伐タントシ、發スルニ臨ミテ此ノ表ヲ上ル。
 先帝 蜀ノ昭烈皇帝劉備。
 三分 魏・吳・蜀ノ三國分立ス。
 光 大イニスル意。
 宮中 禁中。
 府中 大將軍ノ幕府。
 陟罰 晉「チヨクバツ」。官位ヲノボスト、オトシ罰スト。
 臧否 晉「ザウヒ」。善惡。臧ハ善ナリ。

五五 前出師表

諸葛亮

臣亮言。先帝創業未半，而中道崩殂。今天下三分，益州疲弊。此誠危急存亡之秋也。然侍衛之臣，不懈於內，忠志之士，忘身於外者，蓋追先帝之殊遇，欲報之於陛下也。誠宜開張聖聽，以光先帝遺德，恢弘志士之氣，不宜妄自菲薄，引喻失義，以塞忠諫之路也。宮中府中，俱爲一體，陟罰臧否，不宜異同。若有作姦犯

內外 宮中・府中。郭攸之・費禕 共ニ侍中タリ。
 董允 黃門侍郎タリ。



諸葛亮

科及爲忠善者，宜付有司，論其刑賞，以昭陛下平明之治。不宜偏私，使內外異法也。侍中侍郎郭攸之、費禕、董允等，此皆良實，志慮忠純。是以先帝簡拔，以遺陛下。愚以爲宮中之事，無大小，悉以諮之，然後施行，必能裨補闕漏，有所廣益也。將軍向寵，性行淑均，曉暢軍事，試用於昔日。先帝稱之曰能，是以衆議舉寵以爲督。愚以爲營中之事，無大小，悉以諮之，必能使行陣和睦，優劣得所。

向寵 中都督タリ。淑均 淑ハ善。均ハ平ナリ。善良ニシテ公平ナルコト。
 營中 軍中ニ同ジ。

先漢 即チ前漢ナリ。

桓靈 後漢ノ桓帝・靈帝。共ニ宦官ヲ用ヒテ政ヲ敗ル。

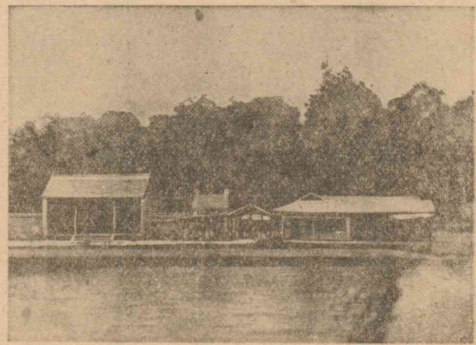
侍中 尚書長史・參軍 何レモ官職ノ名。當時陳震・張裔・蔣琬等、之ニ任ゼラル。皆亮ヲ進用スル所タリ。

南陽 今ノ河南省南陽縣地方。

性命 生命ニ同ジ。開達 聞ハ名譽著聞。達ハ官位顯達。

值 訓「アフ」。遇ナリ。

也。親賢臣、遠小人、此先漢所以興隆也。親小人、遠賢臣、此後漢所以傾頽也。先帝在時、每與臣論此事、未嘗不歎息痛恨於桓靈也。侍中尚書長史參軍、此悉貞亮死節之臣也。願陛下親之信之、則漢室之隆、可計日而待也。臣本布衣、躬耕於南陽、苟全性命於亂世、不求聞達於諸侯。先帝不以臣卑鄙、猥自枉屈、三顧臣於草廬之中、諮臣以當世之事。由是感激、遂許先帝、以驅馳。後值傾覆、受任於



漢昭烈廟及丞相祠堂

二十有一年 建安十二年、亮ハジメテ劉備ノ遺志ヲ受ケシヨリ、此ノ年ニ至ルマデノ年數ナリ。

瀘 河ノ名。今ノ金沙江ノ支流。四川省ニアリ。

中原 河南省地方。時ニ魏ニ屬ス。

舊都 洛陽。

諮 諷 音「シシユ」。謀リ問フコト。

雅言 正シキ言。

敗軍之際、奉命於危難之間。爾來二十有一年矣。先帝知臣謹慎、故臨崩、寄臣以大事也。受命以來、夙夜憂慮、恐付託不效、以傷先帝之明。故五月渡瀘、深入不毛。今南方已定、兵甲已足、當獎帥三軍、北定中原、庶竭駑鈍、攘除姦凶、興復漢室、還於舊都。此臣之所以報先帝、而忠陛下之職分也。至於斟酌損益、進盡忠言、則攸之、裨允之任也。願陛下託臣以討賊興復之效。不效、則治臣之罪、以告先帝之靈。若無興德之言、則責攸之、裨允等之咎、以彰其慢。陛下亦宜自謀、以諮諏善道、察納雅言、深追先帝遺詔。臣不勝受恩

感激今當遠離臨表涕泣不知所云。〔文章軌範〕

杜甫 字ハ子美。支那唐時代ノ詩人。李白ト交リ、詩聖ト仰ガル。蜀相 諸葛亮、丞相祠堂 今ノ四川省ニアリ。錦官城 成都府城ノ名。昔時、錦官ヲ置キ産錦ヲ管セシム。故ニ名アリ。黃鸝 黃鳥。三顧 劉備ガ孔明ノ草廬ヲ三顧セシマフ。兩朝 劉備ト劉禪トノ兩朝。

五六 蜀相

杜

甫

丞相祠堂何處尋

錦官城外柏森森

映階碧草自春色

隔葉黃鸝空好音

三顧頻煩天下計

兩朝開濟老臣心

出師未捷身先死

長使英雄淚滿襟

五七 弘道館記

德川齊昭

弘道者何。人能弘道也。道者何。天地之大經、而生民

德川齊昭 景山ト號シ、私諡シテ烈公トイフ。水戸ノ藩主。萬延元年（三三〇）歿ス。年六十一。弘道 論語、衛靈公篇ニ、人能弘道、非道弘人ト。ト。

不可須臾離 中庸ニ、「道也者、不可須臾離也。可離非道也。」ト。立極 道德ノ標準ヲ立ツルコト。一説、皇位ヲ定ムルコト。六合 音「リクガフ」。東西南北上下ノ六方。

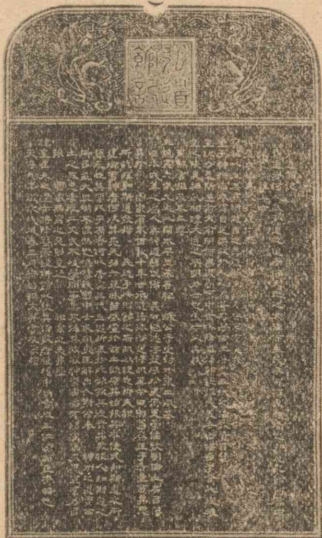
率服 音「ソツブク」。シタガヒフクスルコト。

樂取於人 以爲善。孟子ニ見ユ。

西土 支那ヲサス。

尙 訓「クハフ」。加ニ同ジ。

陵夷 音「リョウイ」。物ノ漸ク衰微スルコト。



弘道館記

不可須臾離者也。弘道之館、何爲而設也。恭惟上古神聖、立極垂統、天地位焉、萬物育焉。其所以照臨六合、統御宇內者、未嘗不由斯道也。寶祚以之、無窮國體以之、尊嚴蒼生以之、安寧蠻夷、戎狄以之、率服而聖子神孫、尙不肯自足、樂取於人、以爲善。乃若西土、唐虞三代之治教、資以贊皇猷。於是斯道愈大、愈明、而無復尙焉。中世以降、異端邪說、誣民惑世、俗儒曲學、舍此從彼。皇化陵夷、禍亂相

撥 訓「ヲサム」。治ナリ。

威公 水戸藩祖徳川頼房ノ諡號。頼房ハ家康ノ第十一子。

義公 光圀ノ諡號。光圀ハ頼房ノ第三子。弟ヲ以テ封ヲ襲ケ。

發 感於夷齊。伯真・叔齊兄弟互ニ位ヲ讓レルコトニ感奮セシナリ。

亮 天功於草昧。天祖ノ神勅ヲ受ケテ、天下ヲ平定シ給ヒシヲイフ。

留 威靈於茲土。常陸ノ鹿島ニ祀ラルルヲイフ。

絲 訓「ヨル」。由ニ同ジ。折衷 中正ノ道トシ、標準トスルコト。

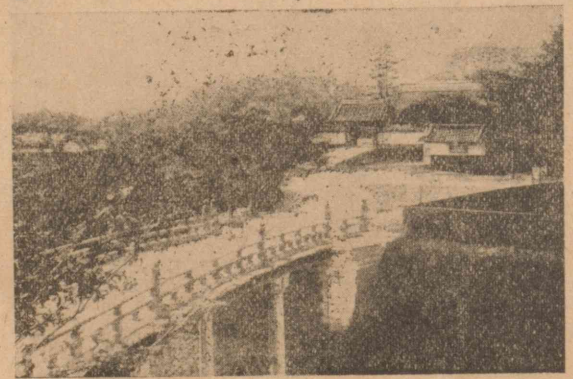
踵、大道之不明於世也。蓋亦久矣。我東照宮撥亂反正尊王攘夷允武允文以開太平之基。吾祖威公實受封於東土夙慕日本武尊之為人尊神道繕武備。義公繼述嘗發感於夷齊更崇儒教明倫正名以藩屏於國家爾來百數十年世承遺緒沐浴恩澤以至今日則苟爲臣子者豈可弗思所以推弘斯道發揚先德乎。此則館之所以爲設也。抑夫祀建御雷神者何以其亮天功於草昧留威靈於茲土欲原其始報其本使民知斯道之所繇來也。其營孔子廟者何以唐虞三代之道折衷於此欲欽其德資其教使人知

无 無ニ同ジ。

岐 訓「ワカツ」。分ナリ。

「弘道館記述義」二卷。藤田彪ノ撰。水戸ノ藩發弘道館ノ設立ノ主旨ヲ記シタルモノ。

斯道之所以益大且明不偶然也。嗚呼我國中士民夙夜匪懈出入斯館奉神州之道資西土之教忠孝无一文武不岐學問事業不殊其效敬神崇儒無有偏黨集衆思宣羣力以報國家無窮之恩則豈徒祖宗之志弗墜神皇在天之靈亦將降鑒焉。設斯館以統其治教者誰權中納言從三位源朝臣齊昭也。〔弘道館記述義〕



弘道館

「大學」撰者不詳。

孔門ノ遺書。明德・親民・至善ノ三綱領ト、格物・致知・誠意・正心・修身・齊家・治國・平天下ノ八條目ヲ説明シタルモノ。

否 訓「アラズ」。

忿懣 音「フンチ」。怒ナリ。

焉 訓「ココ」。茲ナリ。

五八 大學抄

○物有本末、事有終始。知所先後、則近道。

○自天子、以至於庶人、壹是皆以修身爲本。其本亂而末治者、否矣。

○爲人君、止於仁。爲人臣、止於敬。爲人子、止於孝。爲人父、止於慈。與國人交、止於信。

○所謂修身、在正其心者、身有所忿懣、則不得其正。有所恐懼、則不得其正。有所好樂、則不得其正。有所憂患、則不得其正。心不在焉、視而不見、聽而不聞、食

而不知其味。此謂修身在正其心。

○君子有諸己、而后求諸人。無諸己、而后非諸人。所藏乎身、不恕、而能喻諸人者、未之有也。

○言悖而出者、亦悖而入。貨悖而入者、亦悖而出。

五九 中庸抄

「中庸」一卷。孔子ノ孫ノ子思ノ撰。中庸不偏ノ徳ヲ説キタル書。

○道也者、不可須臾離也。可離、非道也。是故君子戒慎乎其所不睹、恐懼乎其所不聞。莫見乎隱、莫顯乎微。故君子慎其獨也。

○天下之達道五。所以行之者三。曰：君臣也、父子也、

夫婦也、昆弟也、朋友之交也。五者天下之達道也。知仁勇三者、天下之達德也。所以行之者一也。

○誠者、天之道也。誠之者、人之道也。誠者、不勉而中、不思而得。從容中道、聖人也。誠之者、擇善而固執之者也。

○博學之、審問之、慎思之、明辨之、篤行之。有弗學、學之弗能、弗措也。有弗問、問之弗知、弗措也。有弗思、思之弗得、弗措也。有弗辨、辨之弗明、弗措也。有弗行、行之弗篤、弗措也。人一能之、己百之。人十能之、己千之。果能此道矣、雖愚必明、雖柔必強。

措 訓「オク」。置ナリ。

「論語」四卷。孔子

ノ後、門人等ガ孔子ノ言行ヲ録シタル書。

子 男子ノ美稱。コ

コハ孔子ヲサス。コ

説 訓ヨロコブ一悦ニ同ジ。

愠 訓イカル。怒氣ヲフクム。

巧言 言葉ノ巧ミナルコト。

令色 顔色ヲ善クスルコト。令ハ善ナリ。

曾子 名ハ參。孔子ノ門人。

忠 眞心ヲツクスコト。

親仁 仁者ニ接スルヲイフ。

六〇 論語抄

○子曰、學而時習之、不亦說乎。有朋自遠方來、不亦樂乎。人不知而不愠、不亦君子乎。



子曰、巧言令色、鮮矣仁。

曾子曰、吾日三省吾身。

爲人謀而不忠乎。與朋友交而不信乎。傳不習乎。

○子曰、弟子入則孝、出則弟、謹而信、汎愛衆而親仁、

餘力 餘暇トイフガ如シ。

北辰 北極星。共訓「ムカフ」。歸向スルコト。

立 立脚地ノ定マルヲイフ。

天命 天ヨリ命ゼラレタル自己ノ責任。

耳順 耳ニ入ル所、皆明カニ了解セラレテ、少シモ滯リ疑フ如キコトナキヲイフ。

不踰矩 少シモ法度ヲ離レザルヲイフ。

溫故 フルキコトヲ研究スルコト。

與議 共ニ道ヲ談ズルコト。

唯 「ハイ」トイフ返事ノ辭。

行有餘力、則以學文。

○子曰、爲政以德、譬如北辰、居其所、而衆星共之也。

○子曰、吾十有五而志于學、三十而立、四十而不惑、

五十而知天命、六十而耳順、七十而從心所欲、不踰

矩。

○子曰、溫故而知新、可以爲師矣。

○子曰、學而不思、則罔、思而不學、則殆。

○子曰、朝聞道、夕死可矣。

○子曰、士志於道、而恥惡衣惡食者、未足與議也。

○子曰、參乎、吾道一以貫之。曾子曰、唯。子出、門人問

曰、何謂也。曾子曰、夫子之道、忠恕而已矣。

○子曰、君子喻於義、小人喻於利。

○子曰、君子欲訥於言、而敏於行。

○子曰、德不孤、必有鄰。

○子曰、賢哉回也。一簞食、一瓢飲、在陋巷、人不堪其

憂、回不改其樂。賢哉回也。

○子曰、質勝文則野、文勝質則史、文質彬彬、然後君

子。

○子曰、不憤不啓、不悱不發、舉一隅不以三隅反、則

不復也。

忠恕 誠心ヲツクシテ人ヲ思ヒヤルコト。

訥 音「ユ」。訓「サトル」。

回 類同。字ハ子淵。孔子ノ門人中第一

人者トシテ師ノ囑望最モ高カリシ人。

陋巷 狭キロヂ。賢哉回也。之ヲ重言

セシハ、嘆美スルコトノ深キヲアラ

ハス。質 中心ノ本質。

文 外面ノ禮。彬彬 音「ヒンビン」。

文質ヨク鈞合ヲサマ。

憤 心通ゼンコトヲ求メテ未ダ得ザル

意。悱 音「ヒ」。口ニ言ヒアラハサント欲シテ未ダ能ハザルサマ。

○子曰、飯_ク疏_シ食_シ、飲_ク水_シ、曲_ク肱_シ而枕_ス之_レ樂_ニ亦_レ在_リ其_レ中_ニ矣_ニ。不_レ義_ニ而富_シ且_レ貴_シ於_レ我_ニ如_シ浮_ク雲_ニ。

○子曰、三人行_ハ必有_リ我_ノ師_ト焉_ニ。擇_レ其_レ善_{ナル}者_ト而從_ヒ之_ニ其_レ不_レ善_{ナル}者_ト而改_ム之_レ。

○曾子曰、可_ク以_テ託_ス六_尺之_レ孤_ト可_ク以_テ寄_ス百_里之_レ命_ト臨_ニ大_節而不可_ク奪_フ也_ニ。君子人_{ナリ}與_カ君子人_{ナリ}也_ニ。

○曾子曰、士不_レ可_ク以_テ不_レ弘_ク毅_ク任_シ重_ク而道_レ遠_シ仁_ニ以_テ爲_ス己_ノ任_ト不_レ亦_レ重_ク乎_ニ。死_シ而後_レ已_ム不_レ亦_レ遠_ク乎_ニ。

○子在_リ川_上曰、逝_ク者_ト如_シ斯_ノ夫_ト不_レ舍_ス晝_ノ夜_ト。

○子曰、譬_レ如_シ爲_ル山_ト未_レ成_ラ一_簣止_ム吾_レ止_ム也_ニ。譬_レ如_シ平_ノ地_ト雖_レ

寄 寄託シテ攝政セ
シムルヲイフ。
百里之命 公侯ノ國
ノ政令。
奪 節義ヲ奪フヲイ
フ。

簣 音「キ」。土籠。モ
ツコ。
平地 地、高低アリ
テ、之ヲ平カニス
ルヲイフ。

覆_ハ一_簣進_ム吾_レ往_ク也_ニ。

○顏淵問_フ仁_ト子曰、克_ク己_ニ復_ル禮_ト爲_ス仁_ト。一_日克_ク己_ニ復_ル禮_ト天_下歸_ス仁_ト焉_ニ。爲_ル仁_ト由_リ己_ニ而由_リ人_乎哉_ト。顏淵曰、請_ニ問_フ其_レ目_ト。

子曰、非_レ禮_ト勿_レ視_ス非_レ禮_ト勿_レ聽_ス非_レ禮_ト勿_レ言_ス非_レ禮_ト勿_レ動_ス顏淵曰、回雖_レ不_レ敏_ク請_ニ事_ス斯_ノ語_ト矣_ニ。

○子貢問_フ政_ト子曰、足_ク食_シ足_ク兵_シ民_信之_レ矣_ニ。子貢曰、必_ズ不_レ得_ル已_ム而_レ去_ス於_レ斯_ノ三者_ト何_レ先_ト曰、去_ス兵_ト子貢曰、必_ズ不_レ得_ル已_ム而_レ去_ス於_レ斯_ノ二者_ト何_レ先_ト曰、去_ス食_ト自古_ク皆_ク有_リ死_シ民_無信_ト不_レ立_ス。

○子曰、君子成_ス人_ノ之_レ美_ト不_レ成_ス人_ノ之_レ惡_ト小人反_シ是_ト。

克 己 身ノ私慾ニ克
ツコト。

目 條目。

事 務トスル意。

民信之 民ガ上_ニフ信
ズルコト。

葉公 楚ノ葉縣ノ長
官沈諱梁。

○葉公語孔子曰、「吾黨有直躬者。其父攘羊、而子證之。」孔子曰、「吾黨之直者、異於是。父爲子隱、子爲父隱、直在其中矣。」

○子曰、「剛毅木訥、近仁。」

○子路問曰、「何如斯可謂之士矣。」子曰、「切切、惓惓、怡怡如也、可謂士矣。朋友切切、惓惓、兄弟怡怡如也。」

○子曰、「有德者必有言、有言者不必有德。仁者必有勇、勇者不必有仁。」

○或曰、「以德報怨、何如。」子曰、「何以報德。以直報怨、以德報德。」

木 質朴。

子路 姓ハ仲。名ハ由。孔子ノ門人。

性勇ヲ好ミ、過ヲ聞クヲ喜ビ、孝ヲ以テ知ラレタ。

切切 誠意ヲツクスコト。

惓惓 音「シシ」。詳ニ告ゲテ勉メ勵マス意。

怡怡如 音「イイジヨ」。和ギ悦ブサマ。

下學 下、人事ヲ學ブコト。

上達 上、天理ヲ知ルニ至ルコト。

子張 姓ハ顛孫。名ハ師。子張ハ字ナリ。

參 訓「マジハル」。我ト相參ル意。

衡 音「カウ」。訓「クビキ」。馬ニ馬車ヲツクル横木。

紳 大帶ノ垂ルルモノ。之ニ書スルハ備忘ノ爲ナリ。

便辟 人ノ意ヲ迎ヘテコビヘツラフモノ。

善柔 面柔ナリ。所謂猫ヲカブルモノ。

便佞 音「ベンネイ」。口前ノ達者ナルモノ。

○子曰、「莫我知也夫。」子貢曰、「何爲其莫知子也。」子曰、「不怨天、不尤人。下學而上達。知我者其天乎。」

○子張問行。子曰、「言忠信、行篤敬、雖蠻貊之邦行矣。言不忠信、行不篤敬、雖州里行乎哉。立則見其參於前也、在輿則見其倚於衡也。夫然後行。」子張書諸紳。

○子貢問曰、「有一言而可以終身行之者乎。」子曰、「其恕乎。己所不欲、勿施於人。」

○子曰、「益者三友、損者三友。友直、友諒、友多聞、益矣。友便辟、友善柔、友便佞、損矣。」

○子曰、「性相近也、習相遠也。」

順 訓「シタガフ」。非
ヲ遂グルヲイフ。

辭 辯解ノ辭。

廣居 仁ヲサス。
正位 禮ヲサス。
大道 義ヲサス。
其道 仁禮義ヲイフ。

菑 訓「ワザハヒ」。
災ニ同ジ。

孺子 音「ジュシ」。
童子ナリ。

六一 孟子抄

○孟子曰、古之君子、過則改之。今之君子、過則順之。古之君子、其過也、如日月之食、民皆見之。及其更也、民皆仰之。今之君子、豈徒順之、又從而爲之辭。

○孟子曰、居天下之廣居、立天下之正位、行天下之大道、得志與民由之、不得志、獨行其道。富貴不能淫、貧賤不能移、威武不能屈、此之謂大丈夫。

○孟子曰、不仁者可與言哉。安其危而利其菑、樂其所以亡者、不仁而可與言、則何亡國敗家之有。有孺

滄浪 地名。

纓 冠ノ紐ヲイフ。

太甲 「書經」ノ篇名。
擘 訓「ワザハヒ」。

獲 於上 上ノ人ニ
信任セララルコ

子歌曰、滄浪之水清兮、可以濯我纓。滄浪之水濁兮、可以濯我足。孔子曰、小子聽之。清斯濯纓、濁斯濯足矣。自取之也。夫人必自侮、然後人侮之。家必自毀、而後人毀之。國必自伐、而後人伐之。太甲曰、天作孽、猶可違。自作孽、不可活。此之謂也。

○孟子曰、居下位而不獲於上、民不可得而治也。獲於上、有道不信於友、弗獲於上矣。信於友、有道事親弗悅、弗信於友矣。悅親有道、反身不誠、不悅於親矣。誠身有道、不明乎善、不誠其身矣。是故、誠者、天之道也。思誠者、人之道也。至誠而不動者、未之有也。不誠

守身 其ノ身ヲ大切ニ守リテ、不義ニ陥ラヌヤウニスルコト。

未有能動者也。

○孟子曰、事孰爲大事、親爲大、守孰爲大、守身爲大。不失其身、而能事其親者、吾聞之矣。失其身、而能事其親者、吾未之聞也。



孟子

孰不爲事、事親、事之本也。孰不爲守、守身、守之本也。

徐子 姓ハ徐。名ハ辟。孟子ノ門人。

科 窪ミヲイフ。放 至ナリ。

○徐子曰、仲尼亟稱於水曰、水哉、水哉、何取於水也。孟子曰、原泉混混、不舍晝夜、盈科而後進、放乎四海。有本者如是、是之取爾。苟爲無本、七八月之間、雨集、溝澮皆盈、其涸也可立而待也。故聲聞過情、君子恥之。

過情 實際以上ナルヲイフ。

○孟子謂萬章曰、一鄉之善士、斯友一鄉之善士。一國之善士、斯友一國之善士。天下之善士、斯友天下之善士。以友天下之善士爲未足、又尙論古之人、頌其詩、讀其書、不知其人、可乎。是以論其世也。是尙友也。

尙論 尙ハ上ノ意。

古ニサカノボリテ論究スルコト。頌 誦ニ通ズ。

○孟子曰、仁、人心也。義、人路也。舍其路、而弗由、放其心、而不知求、哀哉。人有雞犬放、則知求之、有放心、而不知求、學問之道、無他、求其放心而已矣。

仁 慈愛ノ德ヲイフ。義 事ヲ行ヒテ道ニ外レザルヲイフ。

無名之指 手ノ第四指。俗ニイフ。藥指。信 伸ニ通ズ。

類 輕重ノ等級。

爵 爵位。

要 求ノ意。亡 人爵ヲモ失フヲイフ。

傅說 殷ノ高宗ノ賢相。膠鬲 周ノ文王ノ賢臣。

管夷吾 管仲。孫叔敖 楚ノ莊王ノ賢相。

百里奚 秦ノ穆公ノ賢相。

○孟子曰、今有無名之指、屈而不信、非疾病害事也。如有能信之者、則不遠秦楚之路、爲指之不若人也。指不若人、則知惡之心、不若人、則不知惡此之謂不知類也。

○孟子曰、有天爵者、有人爵者。仁義忠信、樂善不倦、此天爵也。公卿大夫、此人爵也。古之人、修其天爵、而人爵從之。今之人、修其天爵、以要人爵、既得人爵、而棄其天爵、則惑之甚者也。終亦必亡而已矣。

○孟子曰、舜發於畎畝之中、傅說舉於版築之間、膠鬲舉於魚鹽之中、管夷吾舉於士、孫叔敖舉於海、百

法家 音「ハフカ」。法度ヲ守ルノ世臣。拂士 音「ヒツシ」。輔弼ノ賢士。拂ハ弱ニ通ズ。

得己 自己ノ本分ヲ全クスルヲイフ。

民不失望焉 治メラルル人民モ期待スル所ヲ失ハザルヲイフ。善天下 德澤ヲ施シテ天下ノ人ヲ治ムルヲイフ。

里奚舉於市、故天將降大任於是人也、必先苦其心志、勞其筋骨、餓其體膚、空乏其身、行拂亂其所爲、所以動心忍性、曾益其所不能。人恆過、然後能改。困於心、衡於慮、而後作。徵於色、發於聲、而後喻。入則無法家拂士、出則無敵國外患者、國恆亡。然後知生於憂患、而死於安樂也。

○孟子曰、士窮不失義、達不離道。窮不失義、故士得己焉。達不離道、故民不失望焉。古之人、得志澤加於民、不得志修身見於世。窮則獨善其身、達則兼善天下。

良能 生來ノ能力。

良知 生來ノ智慧。

孩提之童 二三歳ノ

小兒、孩ハ小兒ノ

願ヲ撫ツレバ笑フ

ヲイヒ、提ハ手ヲ

引キ又ハ抱クヲイ

フ。

王子塾 齊王ノ子。

士 學者ノ稱。

○孟子曰、人之所_レ不_レ學而能_ル者、其良能也。所_レ不_レ慮而
知_ル者、其良知也。孩提之童、無_レ不_レ知_ラ愛_ス其親也。及_レ其長
也、無_レ不_レ知_ラ敬_ス其兄也。親親仁也。敬長義也。無_レ他_ニ達_ス之
天下也。

○王子塾問曰、「士何事。」孟子曰、「尚志。」曰、「何謂尚志。」曰、「
仁義而已矣。殺_ス一_ノ無_レ罪、非_レ仁也。非_レ其有_ニ而取_ル之、非_レ義
也。居惡_ニ在_レ仁是也。路惡_ニ在_レ義是也。居仁由義、大人之
事備矣。」

終

(略名) 帝國山口女漢文

昭和昭和昭和昭和昭和
和和和和和和
十十十十十十
六六六六六六
年年年年年年
十十一十一十一
一月一月一月一月
月月月月月月
十十二十三十七
五九九五十七
日日日日日日

修訂訂訂訂訂
正正正正正正
三三三三三三
版版版版版版
發行發行發行
行行行行行行

子女帝國新漢文
定價金四拾五錢

編者 山口 祭 常

發行者 東京市神田區岩本町三番地
中等學校教科書株式會社
代表者 山本 慶 治

印刷者 東京市京橋區銀座西二丁目三番地
三協印刷株式會社
代表者 高橋 郁

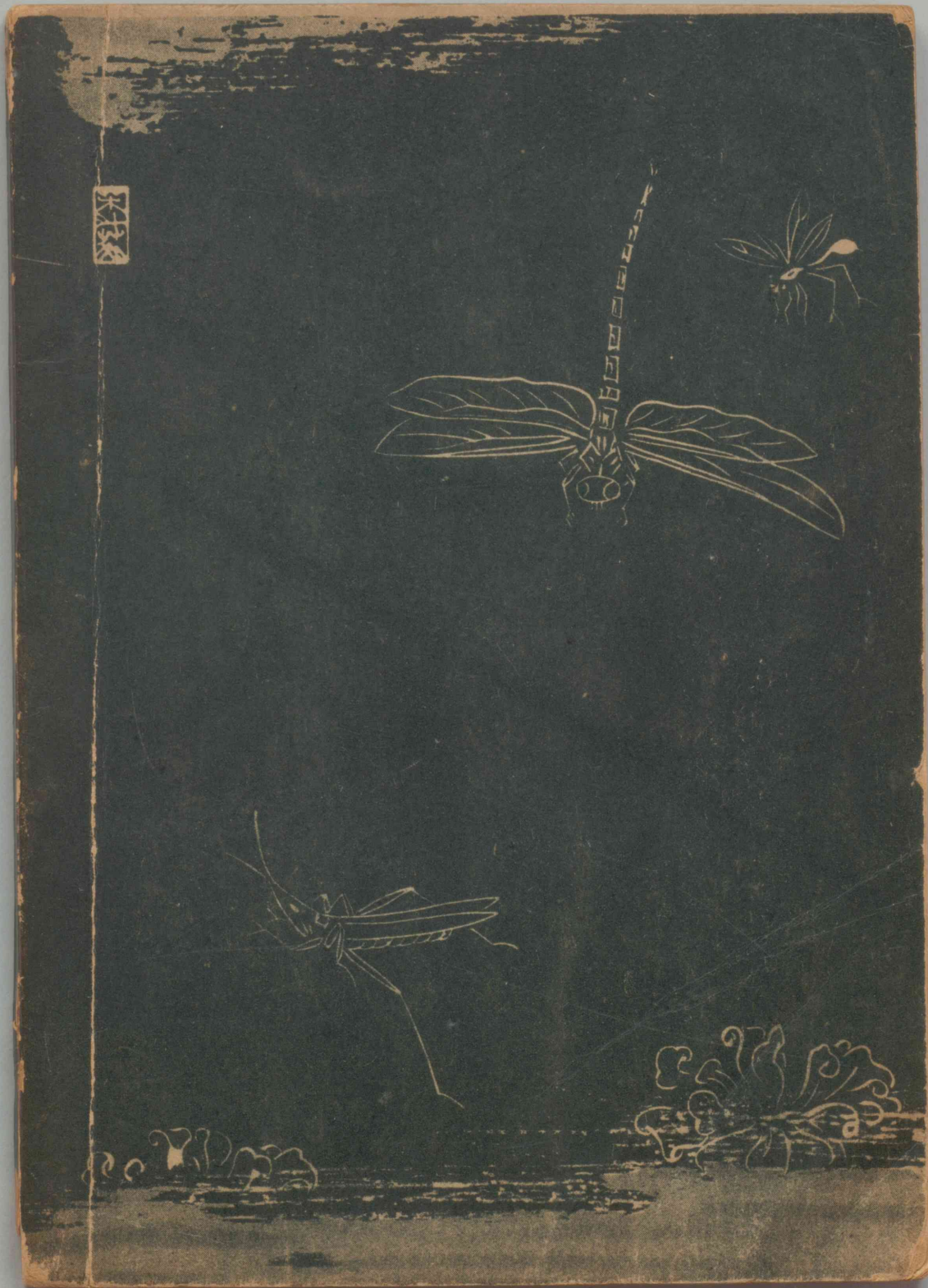


發行所

東京市神田區岩本町三番地
中等學校教科書株式會社
日本出版文化協會會員番號一七五二二

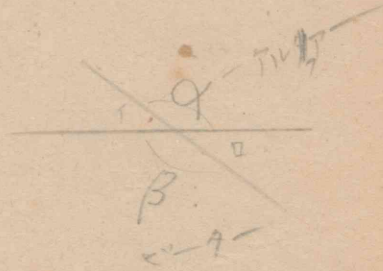
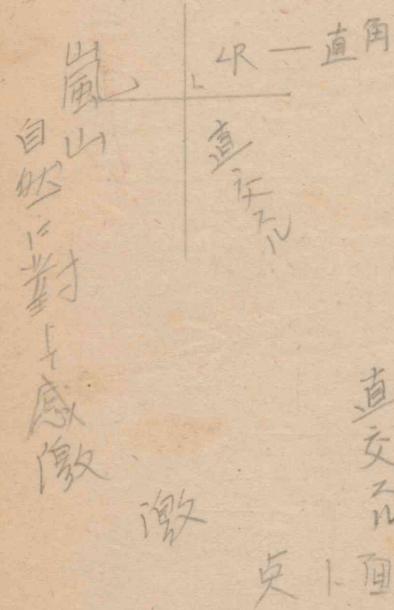
配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町2ノ9

三子年
吾所卜也子





線と線



$\angle \alpha = \angle \beta$ 對頂角

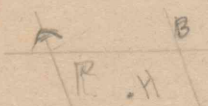
對頂角 相等

$\angle \alpha + \angle \beta = 180^\circ$

$\angle \alpha + \angle \beta = 180^\circ$

直交の面 = 含まれる (相交する) 右田 右田

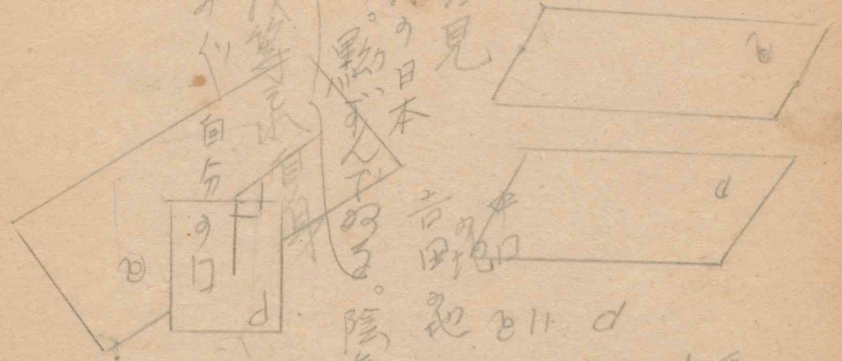
直交



直交

日本強見
新録の日本

我々等
自分
の
門

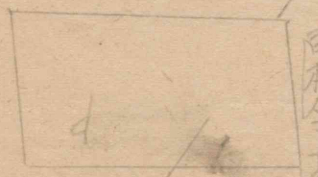
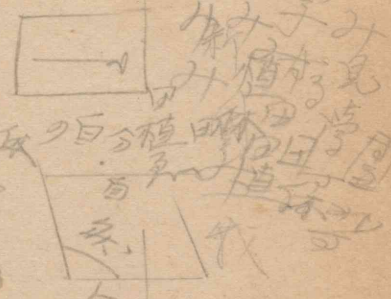


音田
起
陰
氣

此
土
心
思
上
重
一
圓
一
圓
見
想
み

先
生
針
毛
玉

男
児
服



日本
人
の
あ
る

二
十
毛
コ